京城日報

二十八日夕刊

紙價 一部金二錢 [illegible] 廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 奥田直 印刷人 牧口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

第三十七回帝國議會

貴族院(廿七日續)

▲海軍問題押問答

貴族院は午後一時より再び開會

▽目賀田種太郎男(茶話) 兵器費五代金を豫算に計上せざる理由如何砲兵工廠擴張費は何れよりの收入に依るやと質し

▽岡陸相 は砲兵工廠の經營は特別會計に屬し協贊を經たる費以外に擴張せる事なしと答へ目賀田男更に八四艦隊に對する財源不確定にして假令藏相の努力ありと言ふも其前途に憂慮無きを得ざるのみならず豫算編成の形式其體を爲さず又來年度に於て財源無き時は海相は如何にするやと質し

▽加藤海相 八八艦隊に對する豫算の編成は今日直に爲す能はざるに依り其一部なる八四艦隊の豫算を編成したるなり而して來年度豫算無き時は如何にするやとの同質問に對しては必ず實行を期し居るを以て不能の場合を考慮せずと明瞭に答へ次で

▽田健治郎男 は公債償還問題に關し首相に質問せん考なりしも首相出席無きにより質問を見合す可しと述べ

▽柳原義光伯 は政府は尚ほ行政整理の意思無きや尚ほ官廳の官舍中不用に屬するもの多々あり此れ等の整理を行ふの意無きやと質し

▽武富藏相 行政整理は最早不可能なるも成る可く冗費を省くに力む可し又不用官舍に就て調査を行ふ可しと答へ次で

▽澤柳政太郎氏 より八八艦隊は列國の形勢に鑑み制定したるや而して其制定は去る三十九年にして其完成は大正十二年なり斯る多數の日子を要して完成するも滿足なる艦隊を得らるゝやと問ひ

▽加藤海相 は列國の形勢に鑑み戰術上の見地より考慮に考度を加へ制定せり完成期晩るゝも豫期の經驗を得らる可しと信ずと答へ

▽澤柳政太郎氏 は更に明治四十年以來海軍補充費として三億二千萬圓を支出せり此間に於て何故完全なるものを造らざりしやと詰るや

▽加藤海相 は該表は主として關係の變更による結果にして已むを得ざる事なりと答へ此れにて質問を終り

▽岡部長職子 は豫算審查期を來年二月五日までとす可しとの動議を提出し滿場異議無く可決し次いで日程に入り

國庫出納端金計算法
武富藏相の說明あり委員附託

帝國大學特別會計法中改正法律案
高田文相の說明あり水野錬太郎氏の質問ありて委員附託

造幣局設備費擴張に關する法律案
加藤參政官の說明ありて委員附託

裁判所設置及移轉に關する法律案
大正二年法律第九號改正法律案
一括して尾崎法相の說明あり河村讓三郎氏と法相との間に長崎控訴院移轉に關し二三の問答ありて委員附託

東京砲兵工廠及び大阪砲兵工廠據置運轉資本增加に關する法律案
岡陸相の說明ありて委員附託

貨幣法中改正法律案

次いで請願數件を議了しこれにて日程を終り議長は一月十五日まで休會する事を諮り滿場異議無く是れに決し四時散會せり(東京特電)

—輯錄延着—

衆議院(二十七日)

▲進行紛議舌戰

二十六日夜議事の進行につき紛擾のまゝ散會したる衆議院は二十七日午後一時三十分開會諸般の報告終るや議長は暫時休憩すと宣し退場、午後三時再開、島田議長は昨日の議事を繼續す可しと宣し副田又一氏(同志)の討論終結動議は撤回せられたり異議無きやと諮り異議無し〳〵

▽廣岡宇一郎氏(政友) は二十六日長島隆二氏(純無)の緊急動議戰に於ける議事に就き辯明せんとて登壇し昨日の議場に於て長島氏の發言を許可し又之を取消す如きは議長の不注意によるものにて又其補佐役たる書記官長の法規典例に通せざるに歸せずんばあらず而も同志會幹事は時々議長席に至りて議長を牽制するが如き行動ありと非難し

▽望月小太郎氏(同志) は議事進行に關し發言權を求め二十六日の本會議中余が扉を排して出入したるは懲罰事犯なりと云ふ者あり又其投票は無効なりといふも斯る先例は幾度もありと辯じ次いで

▽相島勘次郎氏(國民) は討論を用ゐず質問終了の動議を出したるの非を難じ

▽横山金太郎氏(中正) は曾て星亨氏は豫算に關し討論を爲さずして質問終了す可しと主張したる事ありとて舊き議事錄を朗讀し

▽江藤哲藏氏(政友) は望月氏は先例を引證し投票を終りたる場合は扉を排して出入自由なりといへり余も亦斯く信じ居たるも去る十八日の本會議の際投票を終りて議長背後の扉を排し外出せんとしたるに守衞は議長の命なりとて之を拒否せり二十六日望月氏の外出したるは最近の先例を無視したるにあらずやと一矢を酬ゆ、此の時議場漸く騷然たり次で

▽前川虎造氏(國民) は江藤氏と書記官長との問答に曖昧なる點あれば之を調査す可しとの動議を提出し採決の結果少數にて否決さる

▲追加豫算討議

これより始めて追加豫算案の討議に入る

▽元田肇氏(政友) 追加豫算案は審査機關僅少なりしのみならず二十六日午前中に於ける軍器買込に關する太平組合の質問に對し陸軍當局者の答辯は支離滅裂にて到底他の質問を進むる能はず然るに與黨は多數を恃みて質問打切の動議を出し之を決定せり故に余等は追加案に對して審査不充分の爲め贊否の意思を表明する能はざることを茲に言明すと反對の態度を闡明するや

▽高木益太郎氏(國民) は豫算案審議の速記錄未だ配付せられざれば豫算委員以外のものは審査の狀態を知る由無しと捻込み

▽片岡直温氏(同志) は豫算委員會の經過を述べ政友會諸君は豫算審議の際尙ほ時間あるに拘はらず休會を希望し休會したるに非ずや然も尙ほ審査の時間無きに由るといふは事實を强ゆるも甚しと政友會に一矢を酬ひ審査は決して不充分にあらざる旨を力說するや

▽三土忠造氏(政友) は我黨は豫算審査に最も勉强したり然るにまだ解得することを得ず與黨の諸君も恐らくば然らんと先づ揶揄し一億に餘る巨額の豫算を僅に四時間半にして審査せんとするは國事を輕視に斷ずるものなりと突き込み

▽長島隆二氏(純無) は只今議題となれる追加豫算案は通常豫算よりも重大にして現內閣の財政政策をも知れざるの止なきが如き事あるを變更せざる重大問題なりと述べ更に歐洲出兵論の誤れるを論じ印度人追放を非難攻擊して降壇せり(東京特電)

—輯錄遅着—

雜報

◎政務總監歸京

山縣政務總監は令兄勝津氏病氣の爲め二十八日午前八時三十分南大門驛發汽車にて郷里に向け出發せり因に政務總監には各部長官局長朝鮮貴族官民有志等多數の見送りありたり尚ほ總監は當分同地に滯在の上更に東上の豫定なれば歸任期は未定なるも多分明年一月下旬となる可し

◎總督府御用納

寺內總督は既記の如く二十八日午後四時より總督室に各部長官、局長、課長並に高等官等を集め御用納の式を擧げ一場の訓示を爲せしが右終りて長官政務總監代理として答辭を述べ四時三十分散會せり

◎新鮮銀總裁 來期

新に朝鮮銀行總裁に任せられたる勝田主計氏は二十七日午前四時東京驛發汽車にて來任の途に就けり南大門驛著入京は二十九日午後九時の豫定なる旨其筋に通牒ありたり

◎平壤幼稚園補助金

私立華頂幼稚園に對し平壤學校組合より基本金中四百八十六圓を補助する事に略決定し居りしが今回愈松永道長官より宗教上の禮拜儀式等を爲さず內容形式共に組合設立の幼稚園に代用せらるゝ者たる可き條件を附し下附す可き旨令ありたり

人事消息

▲木田寺介氏(水原模範場長) 廿八日朝入京城府へ
▲白川友一氏 同上古市町柴氏方へ
▲森尾喜三郎氏(京城學校組合用掛) 廿八日朝內地へ

◎暮の大阪より

▲本年の米界

大阪期米市場も二十五日前場を以て年穩禮に目出度本年の大納會を告げたるが回顧すれば本年の米界は前年の大波瀾に匹敵すべくも非ざるも而かも滄來相當波瀾起伏に富みたる年柄なりき即ち客年十二月に於ける十一圓七十九錢てふ改良後の新安値が出直りの焦點となり反動的自然の歸進を始め折柄政府の米價調節は朝鮮の問題となり政府愈々其衝に當るべしとの說に人氣を刺戟し本年初立會は十三圓零八錢に發會し其月廿四日果して勅令を以て米價調節令を發布されし爲來隣進裡に二月上旬十五圓廿二錢の高値を現したるも是が爲め却つて思惑米の續出となり買米壓迫を加ふるに未曾有の豐作豫想に消々決河の頹勢を演じ九月下旬十一圓四十一錢を稱へ明治四十三年以來の大安値に墜落せり然るに歐洲大戰亂の永續は軍需品の大輸出となり在外正貨は激增し金融頗る緩漫に赴き投資漸增の趨向を辿り株式を最とし生絲及び綿絲等の投機的諸品は勿論諸物價は一齊に暴騰せしかば獨り米價のみ安値に甘んずる能はずさす殊に遂作說の喧傳或は米價調節調査委員會の開會等內外の刺戟に人氣興奮して理想買の旺盛となり大勢の大轉換となりて奔騰に次ぐに奔騰を以てし如上の安値より約四圓五十丁方の昂騰を演じて十二月上旬十五圓八十八錢てふ本年に於ける新高值を現はすに至り爾後流石季節的新穀の手廻りに頭重く本日十四圓二十錢に大納會を告げたり

▲歲晚の朝鮮米

近來朝鮮米は改良の結果優に內地米を凌駕する程良質となれるも內地米に比し割安にあるを以て目下思惑熱勃興せる際とて朝鮮米に向つて思惑を企つるもの多く殊に今年はこれまで排斥せし東京方面の需要を喚起し東京正米筋の買進めると三井物產も岩田の手を經て盛んに買煽れる等にて產地は益々强硬となり爲めに十一圓十錢の群山は十二圓九十錢迄昂進し運れて當地の相場も引締れるが昨今內地正米の引緩めると定期も軟弱を示せる影響にて引立たず折から賣行も順行渡りたると年末關係等にて不振にて約二十錢方低落せり然るに產地は依然强硬を失はず最近群山全羅道玄米神著十二圓八十錢同忠淸道及び同二等各十二圓七十錢仁川十二圓の高値を報じ大阪相場に比し尚ほ二三十錢の取引合にあるのみか產地は與に行く程高唱へにて殆んど手の附けやうなき有樣にて出穀時季に際して出穀捗々しからず徒に相場のみ先走れるを以て買人も一時手を退くの已むなきに至れり尤も入津の船腹不足の爲め積出し困難にて仁川群山其他集散市場とも荷間への姿なれば昨今內地への移入尠きだけ內地相場も不賣ながら著しき低落なきが今後は入津の程度と內地定期の如何により更に變化を呈するなるべしと(大阪支局)

南言北語

露軍ヴアルナ上陸の電報には陸兵は日本の大砲を持つて居るとか一兵も損せず無事全部上陸したとかチトおかしな處があつたから半信半疑で居たら何うも根據のない風說らしい▲さうかと思ふと又復露艦四隻はヴアルナ附近を砲擊したと云ふがこれもおかしい多分聯合軍側の牽制的虛報ではあるまいかとは觀察をさするなんて聯合軍側も人が惡い▲八阪丸擊沈に對してまだ〳〵獨逸が日本汽船の襲擊を中止せん以上は日本は遂に出兵を斷行すべくと日米日本大使館員が云つたとか何んとか米國では大分贊成的問題になつて居る樣な▲が、此の樣な事で釣り込まれて出兵したら大變だ米人と云ふのは却々煽動が巧手だ此の戰爭でも巧みな煽動に乘つて國を亡くしたものもあれば亡くせんとしつゝあるものもあるからナア恐ろしや〳〵▲北京では何あに雲南の不穩なんか彼れは虛言ですとしらばつくれて居たらそーれ見給へ愈々やりかけたんだらう▲一體其の首領の蔡鍔と云ふは李烈鈞と並び稱せられた革命兒で明治三十七年日本の陸軍士官學校の出身で▲第一次革命の時にも雲南總督の職を以て討袁の第一聲を擧げた快男子だ▲其後一時袁氏の幕下に居たが今度袁氏が登極の慎望を看破して去る十一月北京を脫走して日本に來た▲而して數名の打ち合せをして今月の十七日雲南に潜行し愈々今度の旗揚げをやつたらしい▲部下の兵力は約三個師團で全部が第一革命當時から訓練した精兵中の精兵だ▲武器なども獨逸製の最新式で彈藥食糧軍費も十分にあるらしい▲之れだから機を窺つて居た貴州と廣西とも相呼應じて蹶起する事は請合だ▲北京政府は恐怖狼狽の態で盛に此の方面に對し買收運動を始めたと云ふ▲元來蔡鍔は第一次革命の際四川、雲南、貴州を連ねて天下三分の策を建てた男だ▲上海の屁の樣な騷とは違つて今度は諸方に鐵腕を擴して居る連中が蜂起するかも知れない▲イヤ年末に多忙しい事ちや之れで北京政府は餅を搗く隙もなからう

家庭用としては至極「便利な「國民日記」

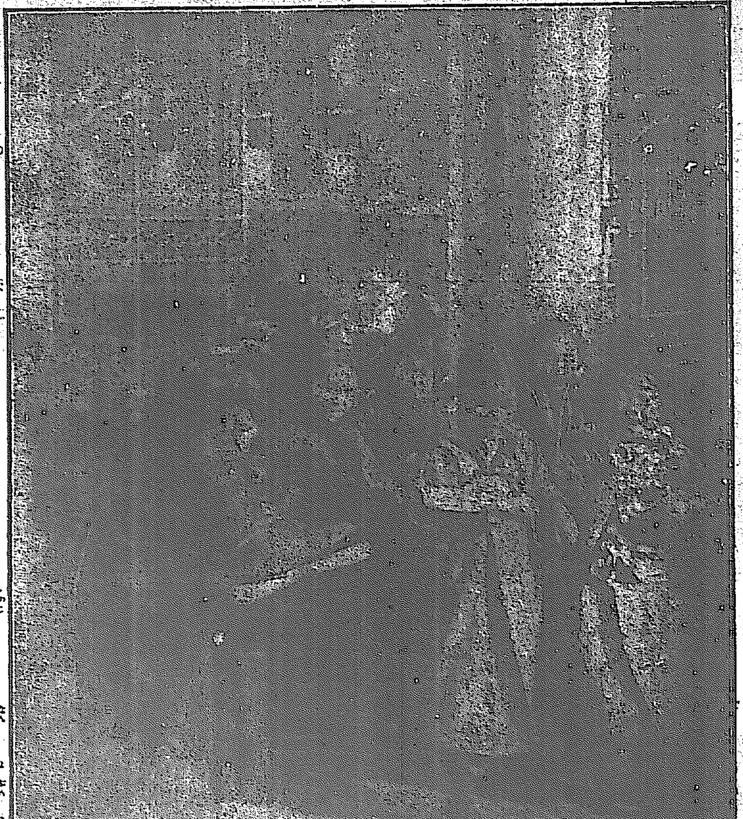
近年、我が國の家庭にて益々日記をつけることの必要を認めらるゝやうになりましたのは、誠に結構な事と思ひます。これにつれて、記帳用の日記類も、年々發行高が殖えてまゐり、毎年內容を整備し、意匠を凝して、種々樣々の日記が出版せられます。中でも、此の「國民日記」は、其の編纂法に餘程の苦心を加へ、家庭用としては最も便利重寶なものです。卽ち、主婦に必要な季節や、其の日其の日の惣菜料理とか、家庭救急療法などがあり、又婚禮の儀式、育兒の栞、交際の心得、さては衣服の事、花卉園藝の事など、凡そ家庭に於て、日常の用務を辨ずるに必要な事柄は、總て網羅してあります。殊に毎日の欄下には世界偉人の年表、言行の大要、現代名士の誕生日、または世界重要事件の日時場所まで、參考として記してありますから、家庭教育の資料も十分に蒐集されて居ります。

尙は此の日記の特色として、大書すべきことは、毎月の初めに、廣業、淸方、輝方、蕉園、百穗、耕花等現代十二畫伯のそれぞれ特色ある繪畫を挿入した事で、畫題に日本の代表的婦人を選んである事です。そして其の裏面には其の月々の季節と式日、行事、節物を面白く揭載してありますから、趣味の點から云つても、之に超した日記はありません。而も紙質の精良なこと、製本の堅牢なこと、裝幀の優美なことは、此日記の最大特色でございます。

定價金四拾五錢　郵稅金八錢

發行所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

□今日からお休み　お正月が來ます。學校は二十九日からお休みになりました。お正月の六日までは、樂しく遊ぶことが出來ます。お、嬉しいお正月休み！



●平和に、樂しく、
年の瀨を越すには常の心掛が肝心

此歳も最早餘すところ二三日のみとなりました、何處の御家庭にても過去一年間を顧みて其の間(總ての事の總勘定を遊ばす時が參りました)私の家では御覽の通り生活が極めて單純なものですから複雜な他所樣の御家庭などとは較べものにる爲りまんのでございますが、併し、小さな一家の經濟ながら歳末となりまして別に負債が出來もせず又大した貯蓄が殘つた譯でも無く(其れかと言つて別に窮乏も致しませず唯だ長閑な平和な)歳の暮れを過して居るのでございますから忙がしい歳末と申しました處で一向那麼感じが致しません、殊に平素は幼稚園の仕事が忙がしうございますので此の冬休み中に春著の裁縫などの殘り物を致して居りますやうな譯で、又新春を迎ふる爲の學校や家の掃除と申しましても平素から(一生懸命に清潔にさせて居ますので歳末になつて)別段忙しいをもございません頃日では唯だ內地の學校から歸りました小供と共に樂しいお正月を迎へることと此の一年間を健康で暮したことを有難い幸せと悦んで居ります許り全く平和な年末でございます、またお歳暮の贈物にいたしてましても(私のは總て師走の十日節季に際して了ふのが)長年の例でございます。それでお女中や小使のなどに木綿著の一枚も新へて贈らうと思へばずつと以前から其の計畫を立て、家務の暇々にそれを仕立てあげておきます、夫れで長年の間押詰つた年末は何時も早く仕事を切りあげることが能きます(年末の贈答品は何か書籍のやうに御和る方が)あるやうでございますが是は一つの趣味であつて且つ意味あるものと思ひます、又總ての支拂なども平素現金拂に致して居りますから一向世話がございませんが一緒に支拂ふやうな勘定になりますと總て品物を買取りました當時其値段相應なお金を(多少餘分に封筒の袋へ納めて置きます)左樣に致しますると月末や年末には直ぐその袋を取り出せば支拂ひが能きます上に幾分でも豫算より剩餘が殘りますれば何だか餘分に儲かつたやうな氣分がして悅しいものでございます、惚う致しまする平素お金錢の費ひ込みも出來ずいつも心が引締つて徒な勝物なども出來ないものでございますから(暮は長年の同樣での支拂に此の流儀を用ゐて居ります)又春衣の新調にいたしましても平素から豫算を作つて年末に買調へる準備を致して置きますので僅かの買物ではございますが店に行つても快よく安い品を買ひ調へる事が能きます兎角世の中は家庭の平和とか何とか申しましても其の根本は一面お金錢の問題でございますから(主婦としては平素から細かい注意を以て經濟に)暮すといふのが一番肝要かと存じます、又著物の裁縫なども昔しの婦人は總て爾子蘭盆までに多著の仕立を濟したものでございますから此の心掛けで居りますれば忙がしい年の暮れも至つて長閑なものでございませう(京口眞子女史談)

●朝鮮を通れば安全で廉い
八阪丸擊沈と歐洲航路の不安

近來朝鮮經由及び敦賀經由の西伯里亞線はナカナカ盛況です日本からも旅客が相當にあるが朝鮮支那方面からは最も多い從つて車中の空席も只今一二等を通じて僅に十八プレースしかない

△不幸なる八阪丸▽　事變から自然此線を取る日本人の方も多からうと思ふ成程海路の如く餘り澤山の荷物は運べず又船內の如く贅澤には參りませんが併し安全の程度に於ては西伯里亞線が一等かと思ふソレに神戶から倫敦迄海路五十四日に對し此方は鐵道が十四日船が三日總計十七日で澤山だ費額は一等五百七十圓で近頃二割引となりたる一等の船賃よりは少々高いかも知れませんが其代り

△一箇月と一週間▽　の時間の經濟があるから反つて安い勘定になる二等でも威張つたものでござる、諾威英國間の渡船は一等にお載せ申す然らば諾威と英國間の海面は危險ではないかと云ふに交戰地帶を通過するのだから何とも云へないが併し此連絡船が擊沈された例は一年前に一度あつた切り其後全くありませんと云ふのは此航路即ち諾威のベルゲン港から英國のニウカッスル港までは英國のメール線で最も大切の貫道であるから

△連絡船は英艦が▽　常に護衛して居るコンナ特典は外にはありませんだから五十六時間の海路は枕を高くして安々旅することが出來る決して商賣仇で云ふのではありませんピクピクもので地中海を通るよりも時間の經濟なソシテ安全な西伯里亞線を取ることを私は此際洋行の日本人諸君にお勸め致すのである若し歐洲行の船が今後喜望峯を迂回する日になると蘇士線なり神戶倫敦間一萬二千哩のものが

△喜望峯線になる▽　と二倍の距離となり日數も賃錢も之に應じて嵩むばかりでなく矢張戒毘度までの危險帶を通らねばなりません結局西伯里亞線は最も廉くて又最も安全と云ふことになる

●暖かいので此暮は病人も尠くない
窒扶斯流行す可と鮮人間の巷說

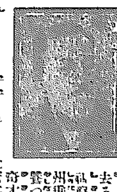
赤い大賣出しの旗や球燈が軒から軒に續いた影に、七五三繩や裏白が張られ、餅搗きの音が町の何處へ行つても聞かれるこの頃、行く處に年の暮の忙しない氣持が漲つてゐるその裡にも來ん春を樂しむらしい色が十分に萌して、往行く人々の足も浮き加減に見ゆる時、なほ鬱々として樂しまぬ顏の人が藥瓶をハンケチに包んでこ、

▲病院線の電車(年に乘り込む、その痛しい姿に心惹かれて、總督府醫院を見舞つて見る、例年に無い暖かさが何時までもつゞいてゐることの不順な氣候が健康に惡い影響を與へてはゐまいか、鼠の多い年は膓チブスが流行するといふ流言が朝鮮人の間にあるといふことを聞いたが若しや本當ではあるまいかと

▲兎角心がゝりな材料を思ひ出しながら庶務課の扉を叩く、係員の談に依れば最近の外來患者は一日に五百名から七百名の間を往來してゐる、入院患者は約二百名勿論施療患者まで入れての勘定である、例年に比して決して多い方では無い、昨年末は殊に傳染病患者は少く、

▲傳染病患者の入院人員が十四五名から二十名もあつたのが本年は無い丈入院患者に於いては全體の患者數も昨年に比して減じてゐるわけである、とて見れば氣候の割に暖かいのも心配するところか却つて有り難い位のもの、朝鮮人間に傳へらるゝ鼠と腸チブスの流行も單なる迷信に過ぎぬものか

醉へず焦がれて
奇才秋濤居士



去る九月下旬南洋から歸つて播州飛水の里に籠つて居た一代の奇才秋濤居士田岡佐代治氏は廿五日午後七時十五分腦溢血の爲めに此世を去つた、享年四十六歳である。生前氏を最も親愛して居た某氏は語るやう『月の初めであつた秋濤は飛水の寓から久方ぶりに私に手紙を寄せた[illegible]病床に吟呻する[illegible]』と書中に[illegible]のか、醉へず焦がれて鳴く[illegible]であつた、南洋に居た頃から[illegible]

□洛陽の紙價を高からしめ[illegible]

●看護婦高麗丸より投身す
姙娠三箇月の身

佐賀市赤松町北野あや子(十八)は京城鍊區洞某醫師方に看護婦を爲し居たるが如何なる事情にや歸國する事となり高麗丸に搭乘內地に向ひたるが乘船後同人は沈み勝ちにて甲板を逍遙し他人と談話もなさず船員も注意中同船の廿七日朝七時半頃に至り突然姿の見えざるに或ひは投身自殺せしものならんと同船長より釜山港と同時に屆出で遺留品として南大門より唐津までの三等切符一枚東京にて撮影し實兄北野哲五郎の寫眞京城及び福岡の繪葉書フロラーショール水晶印眞珠入純金指環一個衣類二枚現金三圓八十二錢にして何等の遺書もなかりし前後の事情より推察し船員の語る所を綜合すれば同人は姙娠三箇月位らしく蓋井島附近にて本日午前五時前後投身せしものなるべく深き事情の伏在せるものゝ如し

●雉子の全煮を食し一家全滅
毒藥で獲つた乎＝枕並べた母子三人

京城西大門町二丁目八十二番古物商金鎭斗(四二)方にては雉の丸煮を食し中毒を起して一家三名死亡したる椿事あり、鎭斗の妻李姓女(三六)は子宮病に罹り居りし爲め雉の丸煮を食用すれば快癒すべしとの傳說を信じ二十五日雉二羽を求め來り羽毛臟腑等をも取去らず其儘丸煮となし同日午後三時頃前記夫婦及び李姓女の母高氏(六七)の三名は共に之を多量に食したる結果高氏先づ發病し同日午後六時頃約十五分間後苦悶の後死亡し次いで李姓女も中毒を起し翌二十六日午後六時半頃遂に死亡し鎭斗も同時に中毒して苦悶したる末同人は二十七日午前七時頃遂に絕命したり急報に依り所轄鍾路警察署より官醫師即時出張して檢視の上屍體は遺族に引渡したり尙右の殘物は之を衞生試驗室に送りて目下試驗中なるが朝鮮人は往々毒物を以て雉を捕殺することあり或は其等の爲め右の如き中毒となりたるものならんかと取調中

●五連發拳銃と實彈を竊む
平壤不良鮮童團
警察の非常召集

平壤府礎九里李錫俊(十七)は一定の住所無く他の浮浪少年團と結託して空巢覗ひ掻攫等を働き十一月下旬頃よりは大膽にも八千代町大和町南山町等の新市街一圓に跋扈し爲めに其の筋にても非常召集を行ひたる事すらありて人心穩やかならざりしが本月十日頃に至り被害は益々加はり南門町峰末松方に於ては十四形金側懷中時計八千代町安藤方に於ては同じく百七圓餘の懷中時計大和町杉小太郎氏に於ては金指環一個外衣類數點價四十七圓南門町眞木太熊治方に於てはピストル五連發一挺及び銃丸五十發等を竊取し其の外被害不明の者十數箇所に及びたるより最後の手段として擧動不審と認むる鮮童十數名を引致取調べたるに前記李錫俊外二三名の所爲と判明し二十八日に至り共犯者全部を捕縛するに至れり(平壤支局)

●三歲の捨兒　京城仁寺洞二十番地下宿屋林廣宗方表門內の土間に二十七日午後十一時頃三歲位の小兒を遺棄したるものあり同家にては拾ひ上げて憐みを加へやり屆出に依り鍾路署より警官出張取調べたり

●占つて見た來年の運勢
露西亞は盛り返す＝五月に開戰乎

▲兒玉呑象翁曰く　來年は知々の吉年だ先づ天候から云ふと『離爲火』と出て總てに水害の憂は無いが其代り地中より火氣の發する象とあつて地震や火事が多いから御用心が大切、但九月十月頃に流行病があるが之は直に屏息する米作麥作は中分のない豐作但し豆は其割によくない先づ不作と云ふ程でないといふ國家の財政は頗る融通を來し貿易は引續いて出超といふ好景氣それにお氣の毒だが大隈內閣も瓦解はしない『風火家人』にて[illegible]位記が上る[illegible]大英斷を下して外債を上げ河野農相亦共に大改良を斷行する事石井外相は外交其宜を失つて面目玉を踏潰し加藤海相亦[illegible]尾崎法相に至つては『雷澤歸妹』大臣喧嘩をして別れる象とはヤレヤレ歐洲大亂は露西亞頹勢を恢復する事著しく(獨逸國軍は[illegible]雨降らざる)の象海軍は兩二途に分れて執も面白くなく佛蘭西は地の利を得ずして[illegible]日支關係も非常に打解けて來て日本は「マア帝政も當分やらせて置くさ」と言つた風(そこで袁大總統帝陛下にはといふと是亦「風雷益」長男家督を相ぐの象であり大に目出たい譯で當分は御代萬歲)

▲隈本有尙氏曰く　『易學の上から見ると目下の日本はかなり得意時代にあるが外交は益々困難となるであらう、其れは畏れ多いが今上陛下の運星を判斷し奉ると分るそして一月二月に入ると從つて外交は益す紛糾し、三月北極に達し、四月末か五月始めには遂に開戰の決心で兵を動かすに至るであらう、其れは云ふまでもなく歐洲各國又は米國との交渉ではなく東洋の天地である、現時困難に陷つてゐる支那問題であるか、乃至印度方面であるかは斷言が出來ず、果して開戰するに至るか、開戰の結果大事件になるか、寳明の限りでないが、兎に角兵を動かすに至る事は斷言が出來る、併し國內一般の景氣はかなりよく、漸次上り一方貿易も今日の儘の好況を持續する、歐洲戰亂は最に判斷した通り明後年でなければ終結しない』と云つてゐる

●獨探自白
朝鮮より內地へ

[illegible]裁判所の令狀を執行し廿六日午前十一時同檢事局に護送し取り同人は瑞典人ブルベックと名乘り既に神戶駐剳瑞典領事の身元證明書を所持し居る故り日獨開戰以前より支那に潛在し居たること判明したれば或る罪名の下に裁判所に送致するに至りたる次第にて奉天に出で更に安奉線に乘替へ朝鮮に至り十八日夜釜山發關釜聯絡船にて下關に上陸し十九日夜到着したる[illegible]

●浮浪者檢擧　京城本町署に[illegible]では二十七日[illegible]管內を荒し廻しゐたる內地人浮[illegible]拘留十[illegible]

[illegible]產後數日目なる二十六日より發熱したるを以て翌二十七日午後診斷の結果猩紅熱と判明し早速順化院へ入院加療中

目いつき、同あき、九風ひさの、外人二名、二等(二十六名)下條武男、帝風秀雄、同[illegible]

天氣　△曇但少雪　△十二月廿九日[illegible]

婦女界 新春特別號 本日出來

善用の效果　鳩山春子

眞の幸福とは何か……
家庭の妖怪退治……(井上了)
正月の食物研究……
無病長壽の要訣……
美貌を保つ義齒……(寺木定芳)
新年の盛花指南……
新春活花の心得……

去年の我家と今年の豫定　當代十四名流の家庭に於ける昨年中の出來事と今年の豫定とを約四十頁に亘りて記述せるもの、諸樣に新春第一の好模範を示すものと信じます。

新年附錄　實驗百種家庭重寶記(便利重寶此上なき八十頁の小形本)　額面用繪附錄

懸賞當選 我家の喜び
▲今の喜びと苦心の十年間
▲非常に心配した後の喜び
▲生涯忘れられない大喜び
▲三十年前に蒔いた喜の種
▲養老盃を拜受した喜び
▲福運を引き當てた喜び
▲夫が高等官になつた喜び

新春準備 主婦の讀物
■婦人通常禮服の心得　■新年の室內裝飾　■新年のお化粧法　■新年の本膳料理　■一月のお惣菜　■我家の經濟

長篇小說 憂き身　柳川春葉

本號特價二十錢(郵稅二錢)　▲半年(六冊)前金一圓五錢　▲一年(十二冊)前金二圓
東京牛込加賀町一　婦女界社　振替東京二〇三八三

絶好の避寒地

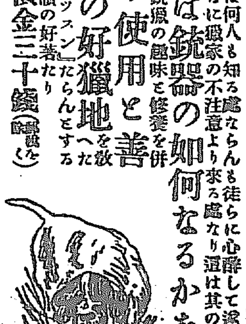
滿鮮避寒客專門特設御旅館
閑靜にして四季の眺望絶佳
待遇は頗る鄭重にして親切
豐後別府海門寺通
溫泉旅館 長門屋
一週間宿料一等七圓二等五圓三等三圓半
尙御客樣の御望みにより御便宜取扱申候

●特價發賣申込の好時●

青坡 吉村君潔著
銃獵之趣味

朝鮮の獵地を知らんとする人
見！銃獵の手引＝多獵を希望せん人＝

銃獵の壯快なる事は何人も知る處ならんも徒らに心醉して遂に身命を誤る者多きは畢竟するに獵家の不注意より來る處なり是は其の銃器を悉知せざるが爲なり　本書は銃器の如何なるかを說き著者多年の經驗より銃獵の趣味と修養を併せて詳說せり　獵犬の使用と善惡を說き　朝鮮の好獵地へたる處始めて「スポーツマン」たらんとする人は元より獵家必讀の好著たり



定價四十錢特價金三十錢(郵稅六錢)
發行所　京城太平町一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社

壹千頁の大冊子　定價僅に五拾錢

新裝せる國民年鑑を備へざる家庭ありや

國民の熱狂的歡迎に對し更に新裝せる我が國民年鑑の威容を見よや内容の精錬充實は固より幾多の新特色を發揮して我が出版界を横行濶歩す

日本に於ける唯一の國民的年鑑

實益無比無盡藏

活社會の活字引

京城日報代理部
京城大平通一丁目
振替三〇〇番
電話六六〇番

●●●國民年鑑の編纂法は世界に有名なるアルマナツク又はイーヤブツクの編纂法に則り更に是れを日本的に改造したるものなり

●●●國民年鑑には政治、經濟、文教、軍事は素より娯樂、演藝、相撲等の雜事に至るまで大凡社會百般の事實現象は悉く網羅しあり

●●●國民年鑑は在來普通の年鑑の如く無味乾燥なる統計集に非ず其特色は始めより終りに至るまで讀んで興味の津々たる事なり

●●●國民年鑑には現代日本及び世界に活動せる知名の士約二千人の小傳を掲げ又銀行會社一覽をも附して年鑑の特色を發揮したり

●●●國民年鑑は大正五年度に於て特に千載一遇の御大禮に關する儀式典禮奉祝其他の記事を卷頭に掲げ國民絶好の記念たらしむ

越後大評定

第八十七席　早川貞水口演

山田左膳の直言

山田左膳が侃々諤々と説き出しましたから、小栗美作赤面して何の答へもなく下うつ向いて居た時に、左膳の父大膳聲を荒らげ『左膳控へ居ろッ』ポーンと扇を以て左膳を撲ちました、左膳打たれて『ハッ』と後へ退る　大『コレッ、御歴々の御揃ひの中に、汝弱年の身を以て無禮の過言ちと嗜んだが宜しい　左『ハッ』するとと大隈帯刀『アイヤ大膳殿、その折檻は御止まりあつて然るべし、御弱年なれども道理明白、實に感心いたした、ア、天晴〳〵、吾々なき後は、御家の忠臣、柱石とも爲るべきは左膳殿で御坐らう、全く此度の

御家督の儀に付き、小栗大六殿を以て御相續とは、夢にも思はぬことなり、御血脈の正しきを迎へるとあらば、もつと近き御親戚の中より、御養子の儀を願つて然るべきなり、御當家は御公儀の御一門、何を苦んで御遠縁なる大六殿を迎へるとのあるべき、誠に以て左膳殿の御意見の通り吾々そこに氣の注ぬと云ふは、如何にも恥かしき次第で御坐つた』述べ終ると次の間に於て大音聲に『ヤア〳〵御一同、名前は申さぬが此席上に於て、主家横領をなすべき國賊あり、三日の間に天誅を加へんそれまで御家督御評定御猶豫あるべし』人々何者ならんかと見てあれば先達御逝去あそばしたる下野守殿の劔術御指南番鞍馬八流、一刀流、兩流の達人、高八百石を頂戴いたし、總身の膂力を出す時は、八十八人力と云ふ、忠義無双の關根彌二郎義任なり、彌二郎は最早兩親を見送り

妻は一生持たぬと只若殿の御指南を致し天晴御仕立申上るを樂み居たるに尋常ならぬ若殿の御逝去、無念やる方なく、茲に大隅頭久國二尺五寸の大刀を提げ現はれ出でたるものにて六尺三寸の大男、イヤ一同『關根なり』と見反る『各位御無禮で御坐るが、御有し下され、只今は大言のやうなれど、必ず其國賊は三日の間に踏み潰し、餡を出させくれん』一同駭いた　甲『踏潰し餡を出すと云ふは何で御坐らう　乙『イヤ是は小栗美作と今坂の間違ひで御坐らう　甲『成程今坂なら餡が出る、此時旭丹波『アイヤ今日の御家督評定の儀、斯る異論の出でたるからは、なか〳〵御取

極めの儀も相成り兼る、今日は此まゝに致して、後日更め御評議あつて然るべく存ずる』云ふと『御道理なり同意』同意と一同の言葉、美作心中『ア、殘念、折角此處まで漕ぎ着け左膳、彌二郎兩人のため打破られたり』と思つたが、是非に及ばず、其まゝ此日は解散となつて、一同退出する、關根は山田大膳の屋敷へ立寄り『さて大膳殿、左膳殿、ア、今日の御家督の御評定、如何あらんと心配いたしたる所、御老臣の御發言もあらざる間に、左膳殿の堂々たる御論辯、天晴なる御忠言、あれにて初めて安心いたして御坐る、乃公も今日

こそは、身命を擲ち、彼小栗美作なる一刀兩斷に致さん心組で御坐つたが、切て御歴々の手前、事荒立つてはならぬと存じ、差控へたる次第、しかし御評定も踏潰し、中止となつたるは心地よいとて御坐いました　大『イヤ、關根先生、御貴殿の御武勇には恐れ入つた、一同の者は心地よく貴殿の御一言を聽き澄まして居つた、今日の御評定を有耶無耶に葬つたるは偏に貴殿の御骨折り　彌『イヤ左膳殿の御手柄で御坐る』

本場　秩父名仙　銘仙　半衿
京城本町一丁目
丸本屋
電話一三四二番

滿蒙處分論
露國クロパトキン將軍原著　日本大井包高譯
定價金一圓　郵税不要
京城日報代理部　振替貯金京城三〇

年末の贈答品には
實用向きの
ちゝぶ銘仙
珍柄豊富
本舗　京城本町二丁目　ちゝぶや　電話八九〇番

十二月三十日九星
舊十一月廿四日　乙未
本命五黄　八方塞佛滅
▲五黄　信心する事有日　新事見合　神佛の事は吉　晴餘なし▲六白　拔目なき日　轉居入門　命件名弘　[illegible]▲七赤　[illegible]▲八白　他の爲を圖りて損さなる事有日　[illegible]▲九紫　有望の日　[illegible]▲一白　一寸した事に　[illegible]▲二黒　平運の日　物下相談を　[illegible]▲三碧　拜み倒しに來る事有日　新事手控　[illegible]▲四緑　心移りのする事有日　新事手控　[illegible]

入院隨意
京城南大門通三丁目（藤木商店横入る）
胃腸病院
電話一六五九番
院主　佐々木杏造

演藝案内

大正館　櫻井町　電話八七三番
十二月廿四日より新寫眞提供　○實寫アルメニヤの古跡　○滑稽好き　佛國エクレール會社製作　○泰西大奇談　眞珠の行衛　全三卷　[illegible]
◎新派大活劇　馬頭又五郎　全三卷二十六場
◎舊劇　北向山靈驗記　戸隱山の鬼女　全三卷八十五場

御成座　御成町　電話二九一
寺內博士之作　一番目　新朝顔　全七場　二番目　ハツピリ　二場

浪花館　明治町　電話二六〇番
新派讀のオーソリチー　京山恭爲一行
△小天狗新道（忠春）△義烈百傑（圓洲）△美術の名作　左小刀（若春）△探偵實話　因果裁判　△横綱大刀山長譚　二席（京山恭爲講演）
毎日午後六時より開演仕候

黄金館　黄金町四丁目　電話二六三七
大阪活動寫眞株式會社專屬　一手代理店
十二月二十一日より　歳末掉尾の大寫眞
○實寫　[illegible]　○滑稽　ゲーニーと針　天下一品　大喜劇　大活劇
◎死の騎手　全五卷
◎新派大悲劇　人の親　全四卷
[illegible]

壽座　本町　電話五七八
年末休演　一月一日より　大阪歌舞伎若手俳優　片岡長太郎　市川鯉三郎　大一座

壽館　壽町　電話一〇五〇
娘義太夫　竹本圓昇大一座來る　[illegible]
登場人員　▲竹本越春　▲竹本昇六　▲竹本入登　▲竹本昇子　▲竹本彌若　▲竹本君子　▲竹本圓昇　▲竹本昇柳
[illegible]

實用的な御贈答品は
高野豆腐に限る
百切以上二百切入（紙函）
五百切入以上千切入（板函）
其他御望みに應じ申候
高野豆腐製造發賣元　仁川花町二丁目　岡洋行

私儀鑛業家諸氏の便宜を圖らんか爲め左記の所に於て鑛山賣買仲介業に從事す
京城府安國洞一五三番地　大平洋服店內　鑛山賣買仲介所
主務　申厚永
取次電話三三六四番

新酒賣出し
一升　金拾八錢
古酒　一升　金參拾錢
各驛迄の運賃當店にて負擔可仕候
但樽代一斗入六十錢。二斗入及四斗五升入は一圓申受候
大邱北旭町　齋藤酒店
電話三四九番　振替八二六番

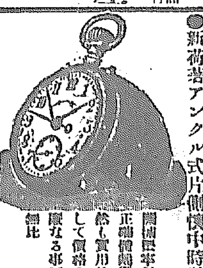
廣告

京城憲兵隊長瀧元次郎氏今回平壤へ轉任ニ付左記ニ據リ送別會開催致候間御賛同被下度候　敬具

一　日時　一月七日午後六時ヨリ
一　場所　朝鮮ホテル
一　會費　金參圓五拾錢
一　申込　一月六日正午迄ニ京城憲兵隊本部（電話三三四番）萩原副官ヘ會費添附御申込ノコト

發起者（イロハ順）
原田金之祐　金谷充　呼子友一郎　子爵宋秉畯　海寶精　山形閑　子爵趙重應　趙鎮泰　有賀光豊　阿部充家

◎新荷着アンクル式片側懷中時計



[illegible]

右は今回新著の商品にて本商會獨り之を有し店に無き所のもの伏して御愛用の程願上候地方遠隔の御注文は代金引換小包郵便にて御送附申上候

時計、寫眞器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貨直輸入商
イングレッシー商會
本店　京城本町二丁目　電話九七二番

優等清酒　一鶴
本舗　京城本町二丁目　電話六五四番　本莊酒店

石炭
明治町
村山商行
電話一〇五一

無双酵良清酒
衛生無害
品質無双

首藤合名會社吟造
精白米御小賣　キリンビール
サッポロビール　醬油　龜甲萬
シトロン　三矢　布引サイダー　各種
朝鮮發賣元
首藤京城支店
黄金町（電話一一七一番）

貯蓄預金
元金百圓ニ付日歩壹錢四厘
金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店
京城黄金町　電話四二〇番　五八〇番　振替貯金口座京城八一四番
同　龍山出張所　龍山旭町　電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

最上醬油
京城本町三丁目
田中支店釀造
電話七六四番

内科
小兒科
京城日出小學校前
入院隨意
院主　醫學得業士　多々見五郎
多々見醫院
電話九四〇番

攝津灘
大塚釀造所吟製
京城本町四丁目
發賣元　前田酒店
電話一三七番　振替口座四二五

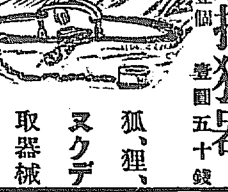
少資巨富を獲んとする仁は來れ
此千載一遇の好機を逸する勿れ
此際舊慣を捨て直接に注文すれ
御申込有之次第注文に應ず
御注文は規定御一覽の上御照會上候
東京株式取引所仲買人
渡部朝太郎商店
東京日本橋區坂本町拾九

開業廣告
今般左記品目卸賣開始致候間何卒御愛顧御用命の程願上候
弊店儀
營業品目
一　西洋紙一切
一　和紙類文房具一切
一　活版石版用（附屬品）（インキ）
一　各種謄寫版機械類一切
平壤大和町道廳通四角
千代田商會

末歳年首適當品
古木盆栽梅
福壽草
雪割草
大輪咲寒椿
古木梅、椿の如きは已に七八年來培栽せしものにて他に類例なき物に有之候其他福壽草雪割草も尤も優秀の苗を選擇し至極廉價に販賣致候間御來觀の上御購求被下度願上候
京城大和町一丁目　警務總監部四ツ角
骨董園藝　業大館　大龜吉
電話一三五五番

新龍山三角地の
むしぶろ
どんな病にも能く効く必ず一度御試めしなさい

米國ビクタートラツプ會社製
獸類捕獲器
壹個　壹圓五十錢
狐、狸、ヌクテ取器械



仁川濱町
京日仁川代理部

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸　一月七日　後四時出帆
若が代丸　十二月卅一日　後四時出帆
神代丸　一月二日　後四時出帆
大有丸　一月五日　後四時出帆
群山東京行　伏見丸　十二月廿九日　後五時出帆
仁川海岸通三丁目　電話五十九番　高杉回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行　立神丸　一月十一日　後五時出帆
○元山浦鹽行　立神丸　十二月卅日　後十時出帆
○門司、神戸、大阪行　小倉丸　一月四日　後五時出
○元山、城津、浦鹽行　小倉丸　十二月　日　後十時出
○元山、西湖、新浦、城津、清津行　第三琴平丸　一月十日　後九時出
○門司、宇品、神戸、大阪行　第三琴平丸　一月　日　後六時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　大興丸　毎月二日九日十六日廿一日廿六日　午後十時出帆
釜山港埋立新町　本船取扱店　大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

西湖津沿岸各港を經て雄基行　第三共同丸　十二月　日　前八時出帆
芝罘、大連行　第二共同丸　十二月廿六日　後二時入　十二月廿八日　前九時出
朝鮮總督府命令航路　城津、清津、浦鹽行（元山出帆）　第一阪鶴丸　十二月　日　後九時出港
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店　本町一丁目（電話一〇八番）　山下回漕部
元山代理店　旭町（電話二四七番）　田口回漕部
京城取次店　南大門通（電話二六八、二〇一七）　河村運送店

大阪商船仁川出帆

○外國航路（[illegible]）
○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
汕頭丸　一月七日　午後五時出帆
天智丸　十二月三十日　午後出帆
溫州丸　一月十一日　出帆
×○木浦、釜山、長崎行（▲は鎮南浦に寄港）
安東丸　一月六日
▲城津丸　一月二日　午後二時出帆
×○鎮南浦、大連行
安東丸　一月十六日
城津丸　一月十三日　午後二時出帆
×◎鎮南浦行　須磨丸　一月二日　正午出帆
◎大阪直行　天佑丸　十二月　日　後五時出帆
○群山、釜山、横濱行
湖州丸　一月十七日　午後四時出帆
福州丸　一月廿六日
△大連直行
△福州丸　十二月廿七日　正午出帆
△チヨイサン丸　一月十二日
○清津、浦潮行（元山出帆）（▲は城津西湖津に寄港　清津寄らず）
地久丸　一月八日
▲神宮丸　十二月廿九日　午後三時出帆
大智丸　一月二日
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
新高丸　一月十七日　午前十時出帆
安平丸　一月廿六日
御注意
○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡
○乘船切符賣捌
○×印は一等客御斷り　△印は船客御斷り
仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二〇番　二二〇番　五五〇番
京城切符發賣所　內國通運會社支店　電話七八〇番
中國四國西部各港行船客に對し幾分の割引[illegible]

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行
相模丸　十二月廿七日　正午出帆
三河丸　一月十二日　正午出帆
竹島丸　一月三日　正午出帆
仁川海岸町一丁目　電話　堀回漕部

朝鮮郵船仁川出帆

仁川より釜山各港寄港（[illegible]）
全羅丸　一月三日
京畿丸　一月十三日
黄海丸　一月七日
咸鏡丸　一月七日　釜山發
總城丸　十二月廿九日
昌平丸　一月二日
鏡城丸　一月四日　元山發
平壤丸　十二月　日
忠清丸　一月十日　元山發
永興丸　毎月廿八回　元山發
嘉義丸　一月二日　釜山發
江陵丸　毎日（釜山浦項）發
三浦丸　一月三日　釜山發
海州丸　三日目毎　釜山發
順天丸　三日目毎　木浦發
慶興丸　一月二日　木浦發
公州丸　一月二日　木浦發
公州丸　一月六日　木浦發
宗信丸　一月四日　仁川發
江原丸　十二月　日　仁川發
麗水丸　十二月三十日　仁川發
全南丸　毎日午前　仁川發
平安丸　十二月三十日　群山發
京城南大門通　松原運送店

京城日報　第三版
二十九日朝刊
(第二千九百八十七號)

京城日報　同化の心理

今日世人口を開けば則ち同化政策を云々するも、所謂同化政策の其體的要領を擧ぐるもの殆ど寡く、同化の由て來る所の心理に關する研究をなすものは更に甚だ稀れなり。夫れ同化は社會心理の一作用なり。社會心理上の本源を極めずして、同化を說き同化政策を說くは、或は淺膚に失せむか。

同化とは其文字の示す如く、本來相異なるものを漸次相同からしむるの謂なり。生物進化の原則を說くものに、遺傳及び應化の理法あり、遺傳が自然の理法なること、應化も亦自然の理法なり。總ての生物は、有心又は無心に其周圍の事物の爲めに變化を與へ、强者優者常に弱劣者を引きて己に同化するのみならず、强弱優劣相若けるもの互に相同化することあり、强優者にして却て劣弱者に同化することも亦これ有り、今日の社會學者の同化論なるもの、概して其根據を此生物進化の原則に求むるの實あり。

獨逸心理學者ウイルヘルム、ヴント、佛國西人ガブリール、タルド等の心理學を紹述するもの甚だ多し、前者は民族心理學を肇造し、後者は社會心理の新研究を開始す、皆從來の個人心理學を、社會又は民族といふ團體の上に擴めて之を交へるものなり、就中タルドは社會萬般の事總て是れ發明と模倣との二に歸するとなす、人類は常に、他人の云爲する所を擧ぶに是れ務むると同時に自ら何ものか新たなることを知り得て、之を他人に宣傳することを求む、發明模倣共に人類社會の自然作用なり、只其れ自然作用なり、模倣者自ら好みて之を爲すにあらざれば其功を成さず、之を導くは可なり、之を强ふるは不可なり、之を强ふるときは初め之を好みたるものも亦之を厭惡す、厭惡の念一たび起るときは、反抗心之に伴ひ猜忌嫉妬怨恨の情深く其中に結ぶあり、於是乎同化は得て期すべからざるのみならず、却て乖離爭訟是れより生ずべし。

之を人類社會の大勢に觀るに、其相隔離せるもの漸く接近し、相特異せるもの漸く相和同す、言語發達の歷史、風俗慣習成立の沿革等、一として同化の理法に合せざるはなきなり、歐羅巴は第三期、石器時代人類の棲息せる處、其後阿弗利加より地中海を經て進入せるものあり、ダニューブ河流域より北歐羅巴に進入せるものあり、各人種雜處せるに拘らず遂にアリアン語を以て之を一統し、其各國に於て之を見るも、本來一人種一民族にて其國を成せるものなしと雖も、其言語風俗慣習相同化して一國民性を成さゞるものなし、而して之れ皆自然的同化作用の效果なり。

其れ同化は自然なり、爲政者自然の理法に基いて、之を利導し之を善誘するときは、其功業勝て言ふべからず、然れども若し此根本原則を離れて、强て其功業を急ぐが如きことあるときは、往々にして大過失を招くことなき能はず、普魯西政府が其ポーゼン、西普魯西の波蘭人に獨逸語を强制して、却て波蘭人の反抗心を誘致し、洪牙利政府がクロアシアの人に洪牙利語を强制して、クロアシアの獨立運動を激發したるが如きは、則ち其利導善誘の道を誤りたるに是れ由るべく、世間或はこれ有るがために同化政策を一抹し去らむとするものあるも、是れ豈同化政策其ものゝ罪ならむや、之を執り行ふもの、人類社會心理の根本原則を離れて、强て功業を急ぎたる爲めに、此大過失を招きたるに外ならざるなり。

朝鮮の先史民族(承前)

八木奘三郎

(八)先史民族の年代

朝鮮先史民族の大略は以上に於て盡たりと信ず、而も其年數の古さは未だ之を說かず、故に以下予輩の所見を記して本年と共に此稿を終らんとす。

先史民族の年數を知るには種々の方法あり、歐米の如きは大氷原時代の前後に涉れるものある爲め、先づ此氷原時代を明にして彼に及べり、其說を聞くに氷原は七萬年に一回來るものにて從來の例に徵するに既に三回に及べり、而して人類の遺物は其最古大氷原時代の以前、即ち第三世紀中新統時代の初めに在り、故に右の氷原時代のみを積算するも尙ほ二十一萬年に達すれども、最後の氷原後、今日に至るまでには已に數萬年を經過し、又最古大氷原前(人類發生迄)と雖も數萬年若くは數十萬年を重ねしやも圖られず又人類が發生後直に利器を製作せしや否や不明なれば其經過の年數をも考量して、大略四五十萬年前に人類世に出でたりと說くもの有り、是等は別とするも其七萬年に大氷原一回來りしことは天文學と地質學との研究上略ぼ疑ふ可からざれば、其前後に挾まる遺跡の年代は大抵動かざるに似たり。然れども、日韓若くは支那、滿洲、蒙古、シベリヤ等に存する先史住民の遺跡は決して斯る太古の分なく、就中朝鮮の如きは日本に比して更に新らしき觀あれば氷原前の例を以て之を律すること能はず、故に貝塚と現在海岸との距離を量り、又は殺土の厚薄を調べて其の年數を考ふる資料と爲さんとするも、是等の點は專門家の研究未だ至らざるに依り又知る可からず、去れば勢ひ歷史上より逆算して考定する必要を生ずる次第なるが、右に就ては日本歷史の年數を假ること便利なれば予は先づ其點より觀察を下さんとす。

日本の歷史は近來史家の間に議論ありて神武即位紀元後二千五百七十餘年の中、六百餘年を除きて二千年近くになさんとする風潮を生せり、其說或は實を得たるならんが、神代の年數に至りては定說なく、或人は古記によりて日向三代を確實と見て之に一世三十年平均を加へて其年數を得んとする者あり、又或人は此時代を少しく延長して何百何十年となさんと試むるものあり、然れども此の如きは寧ろ徒勞に屬して世益少なかる可しと信ず、故に予は採らざるなり、今支那の史書に據りて按ずるに、山海經に南倭、北倭燕に屬すの語有り、此書は世に議論あれども漢初の作ならんと云ふ點は大抵一致せるに似たり、而して當時の國狀は右に依て知ること能はず、又山海經の記事は人に依て信せざれども、後漢書に倭は韓の東南の大海中に在り、山島に依て居を爲せり、凡そ百餘國武帝の朝鮮を滅してより使譯(一本に驛とあるは誤りなり)して漢に通ずるもの三十國許云々とあるは最早我日本たることを疑ふ可からず而して武帝が朝鮮を滅せしは元封三年なれば今より二千餘年以前にして、史家の所謂神代なり(近年の年代說より見て)然れども其國狀を見れば國皆王と稱す、世々統を傳ふ、其大倭王は邪馬臺國に居る、(中略)其法俗多くは(朱崖、儋耳と)同じ土は禾稻、麻紵、蠶桑に宜し、緝績を知りて縑布を爲る、白珠青玉を出す、云々

とありて其國々に王ありと云ふは神武帝の勅語に邑に君あり村に長ありしむるの有樣に能く似たり

歲末小感

蒼洞隱士

○北京政府の總花主義は、地方不穩と共に、大に其の擧を急ぎたるものゝ如く、殊に其の間に於て、曾てより反帝政を以て目されつゝある連中に對し、遠慮なく之れを振り撒かれつゝあるの事實は何人も否認する能はざる處なるべし、然も張園璋、張勳等も未だ其の態度を明瞭になさず、雲南に於て帝政に反旗を飜したりと傳へらるゝ蔡鍔等に對しても、盛に買收運動をなしつゝありと、然り而して此の總花が、反對の結果を産出せんとする形勢、亦たなきにしもあらざるが如き感あるは、聊か蛇足たらずんば非ず、幸ひ之れなくんば北京政府の爲に仕合也。

○試に過去を追懷すれば、共和建國の元勳とも稱すべき黎元洪の如き、利を以て誘はれ、態のよき捕虜となり、監視嚴重を極め居れりと傳へられ、段祺瑞の如きも、陸軍總長を辭すや、終に刺客の覘ふ所となり、朱瑞は其の子を人質とせられ、陸榮廷は其の子を毒殺せられたりと稱せらるゝのみならず、趙爾巽、李經羲の如き立論の不穩なるより、尙ほ監視中にありと云ふ、湯薌銘、陳宦等は吏事に勉勵して却て猜疑を招きたりとの說あり、殊に袁總統とは二十餘年來の刎頸の友なりし唐紹儀も亦、絕交の上捨てらるゝ事繁屢の如く、十年一日其の機密に參與せし趙秉鈞迄も、遂に毒手に斃れたりと傳へらる

○彼を知り此れを視る者、好く其の總花に應じ、又た北京政府が此の總花主義を以て、我事成れりとなすは聊か迂活の觀なくんば非ず、食するの罪か、食せざるの罪か、吾人之れを知らず、要するに支那は益々多事なりと云ふべし。

○蔡鍔既に雲南により、貴州、廣西より四川を以て、天下三分の策を樹て與に之れを實行せんとして得ず、今回の擧旗、之れが實行を期せんとするにあるが、兎に角快男子たるを失はず、其の成否は、益々吾人の感興を深からしむると共に、歐洲の戰況と支那の騷擾、右顧左眄、又た多忙なる哉

霞南先生の雷石に關する示教に就て

林田虎雄

過日小松霞南先生の「石器天降說に就き八木氏に質す(中)」の記述中先生が前には八木氏の青坂謝誤原文の釋讀に關し痛切なる批判を加へられたるに拘らず關談に所謂(星隕て石となり)「霹靂うて石を得刀の如く斧の如し」(下明)につき前後行文の如何に泥まず「又雷震うて」とは其の落下の時の狀態を雷の如きを謂ふなるべし」と斷せられたるに對し油然たる疑問を生じ一書(葉書)を先生に寄せて其の示敎を仰げり蓋し先生の此の斷定や必らず雷石なる和漢の傳說を打破滅却する底の根據ある新たなる學說若くは理論を擁せらるゝあるを信じ竊かに其の敎を乞はむと欲するにあり豈に雷石なる傳說が單り生の故郷にのみ然るものとなさむや之を和漢の傳說なりとして先生に通らざりしは特に先覺に對する禮讓を重んじたるに過ぎず然して先生の「雷石の由來」なる示敎に依り先生の重を閑石に置き雷石を無視せられたるは別に狂くべからざる根帶ある論據あるにあらざるかにし其の想像、新說にして臆斷なるを了し其の後學に對する好意を謝すると共に其の誣數に答ならざりしを敬謝せず但だ雷石なるものが果して地上の石塊が電氣に打たれて斧形の斷片なるが四散するものなる先生の說の如くなるや(四散すと言へば所謂雷石は落雷後には多數點落し居る事となるが如きも傳說には多數の雷石を得るとはなさゞるが如し)否や將た全然無稽の言たるや本來小生は科學上の論議を以て先生と之を諍はむとするものにあらず其の敎を待たむるものにあらざるを以て兇は先生の推定に委し重ねて其誣歟を謝す序に此の高庇に對し一言以て先生の意を安んせざるべからざるものあり即ち先生示敎の最後段に於ける婆心に對するものにして(小生の先生に致したる書は一葉の葉書に認めたるものなるが故に文辭簡より簡短たるを免れず先生誤つて生を以て雷石必有論者と看られたるが如し)生は素より雷石說につき古老の迷謬と無稽の傳說に固著謬惑して敢て先生の示敎を煩はさんとしたるものにあらざること是なり

歲暮の街頭より

松尾秋一

拜啓。年末匆々の砌り、定めし御繁多の事と推し候。今年も將に暮れなんとし最早、餘日もあらざるべう、閭街雜然として混亂を極め目もはらんず有樣に候。古來、盆、節季と俳へわけてごたつく月なりさ、師走はつさに認められて候。日頃にまして本町は、いさゞ、ざよめきの度を加へ、諸街殊に旺盛に候。熟々惟るに、如何ばかり多事多感にて、そもこの年は候ひしよ、歐洲の戰亂は依然として、猶も砲火を續け、滿土動員の動亂は幾多不祥の災難を、平安なる東亞の天地に發せし程に候。顧へつて我國の米國に於ては八幡燭の陰翳を解府內に張みの際宴あるに引換へ袁氏は年來の稱志漸く酬ひて即位の大典を學げんと欲しけり候。斯く來たれば、千想萬思浪々として胸裡に迸沸し、御た感慨の無量なる候え候。

歐洲未來の戰局に關し多人占星者の預言あり。記して江湖の高覽に供し度存じ候。彼の古ふが如くんば何等平和の徵候も、遂に今年は見出だされずと之れ有り候。然るに來春二月の日蝕は、獨の大敗を意味し、英の連勝並びに關士の一大災害を說き候。又來歲頭初の四箇月にわたり、慘澹たる殺戮は演ぜられ、五月一大海戰は進捗を開くべく候。聯合軍は着々戰はるべきも戰局は尙決定せざるべく、獨逸をして一敗地に塗みれ、また立つ能はざるに至らしむるの期は次年に屬し申し候。過去二十二箇月が久しき戰運は、常に暴虐非道なる獨奴の手中に歸したるも來らん明年には、戰況頓に一轉、目ざましき聯合軍の活躍は、期待せらるゝにて候。次に預言の詳細を列事致し候。

一月、獨軍數多の犧牲を遁棄して自國國疆に退く。
二月、聯合軍國疆に侵入する國內ために紛擾を極む。
三月、プロシヤ兵聯合軍を驅退すべく、力戰苦鬪に勉む。
四月、一時休戰提起さるその間諜僞敗にいそがはし。
五月、光榮ある大勝は英國海軍によって勝得らる。
六月、聯合軍、到る處に連戰連勝す。
七月、英兵屢々殊功を奏し名聲ために嘖々たり。
八月、奸智に長けたるカイゼルも、こゝに初めて蹉跌するに至る。
九月、一大決戰あり
十月、獨逸國內社會黨蜂起し帝國の死解を圖かる
十一月、獨政府國庫の涸渴になやむ
十二月、戰局猶未決、英は更に勇進を斷續す

以上の如くに候。聞くならく獨帝目下病篤く、薄遲に沮喪して立つ能はずと。一占者あり、カイゼルの近くべきを占ひ候。彼の死、もし現實せられなば大局は忽然として、一大激變を來たすならんと思惟せられ候。茲に諸賢の健在を祈り先は擱筆致し候。敬具(大正四年十二月二十七日夜)

朝鮮彙報　大正五年一月一日　(毎月一回一日發行　定價二十五錢　郵稅二錢五厘)

主要目次

◎口繪(京城白雲洞砂防造林地・鎮南浦築港利用の狀況・博物館內部、外部(三色版))
◎新年の辭　京畿道長官　檜垣直右
◎大正四年に於ける朝鮮新年の所感と希望　勸業模範場長農學博士　本田幸介
◎農作物の改良　中樞院書記官長　小松綠
◎教育と宗教　中央試驗所長農學博士　豐永眞里
◎興業資料(一)　醫學博士　北里柴三郎
◎傳染病に就て　工學士　飯島純介
◎朝鮮の金鑛業
◎神社寺院規則及布教規則の要旨◎大正五年度豫算綱要◎朝鮮貿易の參考事項◎東洋拓殖會社の拓殖資金供給
◎篤行者事績◎朝鮮に於ける製紙業の一斑(一)　工業傳習所技師　更田信彌
◎製造煙草消費狀況◎ドイツトウヒ防寒裝置試驗成績◎朝鮮林業年中行事◎交通館を觀る◎十一月中の鐵道運輸◎勤儉貯蓄の德性涵養◎手工教授參考資料◎京城水道の水質◎醫士試驗の狀況◎民籍事務に就て◎定期學事報告例◎鮮人公醫の好評◎免囚保護
◎御大禮拜觀私記　檜垣直右拜記
◎曹達工業に就て　中央試驗所技師　今津明
◎朝鮮産陶磁器原料　中央試驗所技手　海福紀一
◎朝鮮語の研究　總督府通譯官　新庄順貞
◎朝鮮物語の研究◎貴重毛皮に就て◎紐育に於る監獄の新施設◎地方通信◎雜報◎質疑應答◎敍任及辭令◎統計
◎法令及通牒◎判決例
◎投稿を歡迎す　原稿締切期限每月十日
◎販賣店　東京神田巖松堂、朝鮮各地の書店に販賣す
◎廣告料　一頁十圓　取扱店　京城　ウツボヤ書籍店

お正月のお仕度はお揃ひになりましたか萬々一石鯖のたら未だお揃ひになつたとは申されませぬ御大典第一次の芽出度新年をお祝になるには清酒界最古の歷史を持つて居ります名實兼備の澤の鶴は最も適當と存じます……

只今お電話を

日光　喜　米壽

特約店
京城本町一丁目
佐藤牧商店
電話二九番

朝鮮總督府裁判所書記　早川保次君編著

再版　改訂增補　朝鮮不動産登記　朝鮮商業登記　申請書式並心得

▲紙數四百八十頁。代價金壹圓。郵稅金拾錢

本書中不動産登記の部には土地調査に關聯せるもの及不動産登記法に依る申請書式、官公署の登記に關する囑記書式等併て百貳拾餘件並に印鑑屆、印鑑證明願、改印屆、土地變更事項に關する證明申請(京城府所定)委任狀、契約書、保證書、建物圖面及共同擔保目錄雛形等を揭て加之官通牒、登記に關する決議、實例等苟も申請人の參考と爲るべきものは擧て各書式の末尾に之を揭記し以て疑默を釋明し又商業登記の部には未成年者、妻、法定代理人、商號、支配人及各會社に關する申請書式等併て五十餘件を登載し且一讀何人にも了解し得へき程度に之を編纂せり土地所有者、不動産上權利者、會社、代書者必備の參考書たり

發行所　京城大平通一丁目　振替口座京城三〇〇番　京城日報社代理部

▲特産取扱

▲發送貨物數

品名	噸數	品名	噸數
石炭	二九二四九	支那酒	三〇九
大豆	一〇九三	日本酒	一三二
豆粕	一四〇八	果物野菜	三九四
高粱	五三二	陶磁及土器	一五七

第三十七回帝國議會

年末最終の衆議院 紛騷を極めし追加豫算可決す (昨日夕刊續き)

次いで後野陽吉氏(同志)登壇、元田君が本案に對し贊否の意思を表示せずと述べられたるも本豫算は國民が血を流したる日獨戰爭の前後に要する經費なにも盲從したるに非らずや議會は本案に對し監督權を保留し政府を信頼して協贊を與ふべき也と論じて降壇

▽柏原文太郎氏(國民)登壇 本員は政府が時期切迫せるに本案を提出したるを以て誠意を缺くものなりと認むと質問し(一)政府委員は出師準備に差閊へなしといふも現役兵にも行き渡らざる新式銃を賣却しながら差閊へなしといひ得るか、然かもその賣却金を曖昧に附し去るに於いてをや是陸軍の信頼するに足らざるを憤慨し予等は財政監督權を行使する上に於て兼案そのものに對し贊否を決する程度に達し居らずと斷じ

▽小山松壽氏(公友)登壇し たるも氏は國防問題が何うとか鐵道會計が斯うとか讓張り分らぬ議論を吐き在野黨より盛んに野次られ論旨支離滅裂處女演說としては確かに落第なりき次で

▽伊東知也氏(國民)登壇 本員は此の一億に達する大追加豫算案の內容を了解する能はず斯は本員のみならず與黨諸君も亦然からん現に只今の小山君の贊成演說は如何議案には毫も觸るゝ事なく愚劣極まる辯を弄して茶番を演じたるにあらずやと小山君を冷罵し從んに支那通を振廻し破鐘の如き蠻聲を張上げて降壇

▽石橋爲之助氏(中正)登壇 公債借款鐵道關係に就いては豫算委員會に於て充分質問應答を重ねたるに非らずや云々反對論を駁し非募債主義と言ひ募債主義と言ふも畢竟言葉の爭ひなり金融緩漫の今日募債するは善政なりと信ず之れを非難するは惡政を奬勵するものなりと簡單に贊成論を述べて降壇

▽岡陸相 登壇長島君の演說中會計檢查院にて兵器を檢査するに方り甲の倉庫より乙の倉庫に移したる如き事ありといはれしも斯てさる事なしと辯明し降壇玆に到り

▽島田議長 は織田又一氏(同志)より討論終結の動議提出ありとて採否を起立に問ひたるに多數にて討論終結となり、森田小六郎氏(中正)本案の採決は簡易なる方法によられたしと望む此の時政友會國民黨席は空席多し斯くて追加豫算全部を起立に問ふや多數にて可決玆に於て二日間前援を極めたる議事を終り議長は二十八日より來月二十日まで休會する旨を宣し散會せり(東京特電)

◎革命軍用金と黃興

雲南に於ける革命黨蹶起の報至るや米國の輿論は非常に革命黨に同情し東部の某地に在る黃興に對して在米支那人より軍資の醵出を申し出づる者多く同氏は巨額の軍用金を得て近々米國を出發すべく準備中なりとの報當地革命黨員の許に達せり(上海電報)

◎帝政反對派殺戮

支那政府は近來軍事執行所の手を經て帝政反對派を捕へ何等の訊問を爲さず竊かに殺戮せしめつゝあるがその數頗る多しと(北京電報)

◎支那政府の日和見

支那政府は若し雲南鎭定せば帝政を實行し得らるべきや否やに就き諸外國の意嚮を探りつゝあり(北京電報)

◎波斯內閣瓦解と聯軍

テヘラン來電に曰く波斯內閣瓦解し國王はファーマンファーマ氏を首相に指命せりこれ聯合國側が外交的に大捷を博せるを意味す(倫敦電報)

東京發別電

▲喜望峰迂回亦危險 [illegible]

▲獨帝重態虛報 獨帝の病氣は更迭すと [illegible]

▲南支各省呼應す 雲南の獨立は其基礎鞏固にして附近各省呼 [illegible]

米穀買は益々下落の狀態を呈し昨年末地租納期に入りては更に低落し地方農民は [illegible]

▲主要物產の產額 [illegible]

もの尠なからず現に他郡地主所有地畓二千十二町三反步田六百九十町八反五畝步此の小作料米一 [illegible] 萬三千百八十七石 [illegible]

[illegible] 一千七百七十圓受入高千三百卅圓十三錢十二月十五日迄貸付高二萬二千八百十九圓受入高一萬二百二十 [illegible] 金にて農工銀行支店に於て取扱ひたる金額は米穀購買資金に關する以上の [illegible]

◎雲南討伐

二十七日支那政府は酒川將軍に對し雲南討伐準備を電命せり(北京特電)

◎露帝大典祝詞

露國皇帝陛下には吾が聖上陛下御即位の御祝詞御傳達のため今回特に侍從武官長ゲヲルギーミハエロウキツチ太公殿下を御名代として吾國に御差遣あらせらるべき旨御沙汰あり同太公は二十八日露都御出發急行列車にて西伯利亞線經由來月八日頃御來朝の筈なり(東京特電)

◎文武官敍勳

二十八日午前十時宮中南溜の間に於て一條公以下八百二十六名の文武官に對し敍位の御沙汰ありたりその主なる者左の如し(東京特電)

從二位勳一等公爵 一條實輝

敍正二位

海軍大將男爵正三位勳一等功二級 齋藤實

敍從二位

◎一木內相敍勳

一木內相は二十七日左の如く敍勳の御沙汰に接したり

內務大臣勳二 法學博士 一木喜德郎

敍勳一等授瑞寶章

◎吉川男爵薨去

貴族院議員宗秩寮審議官正四位勳四等男爵吉川重吉氏は二十七日午後七時薨去せり危篤の趣天聽に達するや從三位勳三等に敍し瑞寶章を授けらる(東京特電)

◎譚人鳳下關著

革命黨首領譚人鳳等二十八日朝下關着門司經由長崎に向へり(門司特電)

◎白仁民政長官歸任

白仁民政長官廿七日臺南丸にて歸任來月十四日頃出發上京すべし(大連特電)

◎小田切氏大連着

正金銀行重役小田切萬壽之助氏二十七日北京より來連四鄭鐵道借款成立顚末に就き協議す氏は三十日臺南丸にて出發歸國の筈(大連特電)

雜報

◎增師編成方針

朝鮮增設師團の配備は既に官報を以て發表せられたるが今二箇師團の編成方針に就て駐劄軍當局者の語る所を聞くに來春四月早々現駐劄師團即ち第九師團は內地に歸還するを以て之が交替は軍備上最も迅速に遂行せざる可からず即ち從來の守備方針は或は守備地に於て缺陷を生じたる場合無きにあらざりしと雖も朝鮮は殖民地統治上一刻も兵備を忽諸に附す可からず依つて來春三月末新設師團第一着手より配備を完からしむ可し即ち現在は一箇師團半の兵備なるを以て來る三月に於て內地師團の一箇乃至二箇中隊(二年兵)より成れる一箇師團を混成して直ちに渡鮮せしむるものなり而して右二個師團の完成するは大正十年にして大正六年度よりは各師管の初年兵を送致し朝鮮に於て軍事教育を施すものとす而して從來の渡鮮將校は悉く獨身にて赴任せしが這回の渡鮮將校は悉く妻帶者なり大正五年度即ち第一回の渡鮮師團は中部師團即ち第四師團(大阪)第五師團(廣島)第十六師團(京都)第十師團(姬路)第十一師團(善通寺)及び第十七師團(岡山)等の各師團なりと

◎鑛業令施行規則

先に公布されたる朝鮮鑛業令に伴ふ附屬法規は豫て立案作成中なりしが愈々二十七日より總督府參事官室に於て審議年末年頭の休暇中にも拘はらず關係當局は鑛業審議を重ぬる筈なるが遲くも來春二月中旬には發布を見るに至るべしと

◎鮮銀浦鹽發展 明春一月支店開設

朝鮮銀行が浦潮方面に今後大發展を爲すべく準備中にして更に露領方面に支店網を擴張し近く浦鹽及び哈爾賓に支店を開設せんとする計畫あることは本紙の既報に報じたる處なるが愈々浦鹽の松田銀行部を買收して支店を開設するに決したり而して鮮銀松田間の交渉は來春一月松田銀行部の株主總會に於て決定すべく之れが決定の上は舊大連支店長中村光吉氏支店長として同地に赴任すべしと

◎剩餘金處分決定 協贊會の收支決算

京城協贊會は二十七日午後一時より銀行集會所に於て商議員會を開催し副會頭並に各理事全部商議員二十餘名出席吉原會長より協贊會從來の經過に就き概略の報告あり其より收支決算書を發表して滿場の承認を求むる所あり該決算書に依れば收入の部に於ては合計十五萬零二百五十五圓餘支出の部に於ては合計十三萬八千六百三十圓餘となり差引殘額五千九百十三圓二十二錢の剩餘金を生ずるに至れり牧山氏は之に對して剩餘金を除き全部の承認を發議して滿場の諾する所ありしに衆議之に一決して原案に贊成何等質問も無くして全部之を承認せり第二案の剩餘金處分に關しては會長より二個の處分案を提出せしも寺內總督一任說起り理事側と商議員との間に熱議講究し結局剩餘金の處分に對しては之を寺內總督に依賴することに決議し公益上最も有効なる支途に充つるの希望を附して前記の剩餘金は總督に之れが處分を一任することになれり而して兒玉總務局長に對して吉原會長より吉原會長に對しては協贊會より深厚なる感謝狀及び記念品を贈ることに決し木村、岡、韓相龍の三氏に記念品選定方を一任せり

◎露領方面への書信 年賀狀は第一種郵便

露國政府は戰時にて郵便遲滯み居る折柄開封の賀狀を多數發送する時は他の重要なる郵便を遲滯せしむるの恐あるより內務省令を以て賀詞印刷せる書札又は名刺を第三種郵便即ち開き封として發するものへは其の遞送配達を一切停止し若し此種の郵便にして郵便局に來着したるときは當該局に於て悉く之を燒却すへしと制定したり從つて浦鹽在住邦人の年賀狀等は悉く第一種郵便として發送するを要し又他地方より在浦鹽友人等に宛る年賀狀は凡て普通信書同樣第一種として發送することゝなりたるに付此際注意を要すべしと

◎位記傳達式

二十七日午後一時總督府總督室に於て檜垣京畿道長官渡邊高等法院長以下八名に對する位記傳達式を行ひ寺內總督代理山縣政務總監より夫れ〱位記の傳達を爲せり

◎各官衙御用納

二十八日左記官衙に於て御用納式を擧行せり

▲警務總監部 午後二時より總監部會議室に於て憲兵司令部警務總監部高等官一同參列御用納式を擧行し立花總長より一場の訓示ありたり

▲京畿道廳 午後二時より一同京畿道廳構內官化堂に參集御用納式を擧げ檜垣長官一場の訓示を爲す

▲道警務部 午前十時より警務部長室に市內各警察署長參列御用納式を行ひ警務部長の訓示ありたり

▲京城府廳 午後二時より例の通り御用納式を擧行せり

▲遞信局 午後四時より御用納式を例年の如く擧行池田長官訓示を爲す

◎新年祝賀次第

總督府に於て定めたる大正五年一月一日に於ける新年祝賀次第左の如し

一、總督は午前十一時三十分より午後一時に至る間總督官邸に於て左記各員の祝賀を受く

一、本府並に所屬官署(京城、龍山)勅任官

一、本府官房及び各部高等官三等以下は各總代一名判任官は各總代一名

一、所屬官署

長官は各自の官署員より祝賀を受けて後總督官邸に參集共同總督に申報す

一、李王職職員は前項に準ず

一、中樞院副議長、顧問贊議、副贊議

一、朝鮮貴族

(服裝)服制ある者は大禮服又は同相當服然らざる者は燕尾服、勳章、大綬を帶ぶ

▲各官署祝賀式

來る元旦の當日各官公衙に於て行はるゝ新年祝賀式の內決定せるもの左の如し

▲京畿道廳 大正五年一月一日京畿道廳に於ける祝賀次第左の如し

一、當日午前九時五十分道廳內官化堂に御眞影を奉掲す二、午前十時京畿道高等官判任官(囑託を含む)一同非職長官化堂に參集三、[illegible]各部課に依り各御影前に進み最敬禮、次に第一部長次に第二部長次に他の高等官次に判任官及判任官待遇者一同[illegible]を述べ道長官に申賀すべき旨[illegible]判任官一同最敬禮六、離れて[illegible]一同最敬禮七、一同退出八、服裝は判任官以上は制服(帶劍)若くは羽織袴を着し朝鮮人は相當敬意を缺かざる服裝にて差支なしと

▲司令部總監部 大正五年一月一日憲兵隊司令部及び警務總監部に於ける祝賀式次第左の如し

[illegible]

▲在鄉軍人會 大正五年一月一日在鄉軍人會分會は憲兵隊司令部道廳前に於て午前十時より祝賀式を行ふ可し

◎總督府御用始

總督府に於ては來る一月四日午前十時高等官一同第一會議室に參集御用始式を行ひ寺內總督より一同に對し一場の訓話ある筈

◎各河結氷狀況

鴨綠江 鴨綠江は近年稀なる暖氣の爲め江面全部の結氷を見ず今月二十二日の寒冷にて全く結氷したるも氷結尙ほ薄きが爲め人馬等の通行危險なり然れども三四日中に寒冷の一度加はれば安全に橫を交通し得るに至るべし

▲豆滿江 豆滿江は去る十五日より全部結氷し牛馬車の氷上通交支障無きに至り沿岸憲兵分隊分遣所に於ては例年通り夜警團を組織し對岸よりの不良徒輩の警戒を開始せり

▲春川地方 江原道管下春川楊口兩郡內河川は十二月二十日より結氷し道路接續するものは人馬車氷上を通過しつゝあり

◎最終の長官會議

二十八日は定例長官會議當日に付午前十時より總督府第一會議室に於て開會寺內總督以下各部長官局長及び立花警務總長等會同通常政務其他に就き打合の上散會せり之を本年最終の長官會議とす

◎總督邸忘年宴

寺內總督は二十九日午後六時半より官邸に於て忘年會を兼ね饗宴を開き各部長官局長課長井口軍司令官川村第九師團長古海軍參謀長立花警務總長小宮李王職次官其他を招待す可し

◎仁川府協議會

仁川府廳に於ては二十七日午後三時より府廳樓上に於て本年最終の協議會を開會せり全議員出席し仁川府有地と仁川學校組合有地と交換の件寄附命令受領の件大正四年度仁川府歲入出追加豫算寄附品受領の件は原案通り工事の請負勞力の供給及び物件の賣買貸借に關する條例を制定せんとするの件は一部修正可決し午後六時閉會せり

◎小杉彥治氏退官

總督府視學にして京城女子高等普通學校教諭なる小杉彥治氏は今回一身上の都合により官を辭し二十七日付其辭令に接したるを以て二十九日より約二週間忠淸南道に轉地療養を爲すべしと

◎兩經理官送別會

京龍官民は廿八日午後五時半より龍山八景園に於て這回駐劄軍經理部より第五師團經理部長に榮轉せる木村二等主計正及び駐劄陸軍倉庫長より第十六師團經理部長に榮轉せる村井二等主計正の爲めに送別宴を開く

◎淸州警察移轉開廳式

豫て新築工事中なりし淸州警察署新廳舍は此程愈々竣工を告げたるに依り二十七日午後同構內に官民有志二百餘名を招待し盛んなる移轉開廳式を擧行したるが正午過ぎ第一鈴にて一同式場に參集先づ齋藤署長の開會辭に次ぎ工事經過報告あり次に警務總長代理永谷警務課長の祝辭朗讀あり後署長の答辭ありて式を終り正門前にて記念撮影あり第二振鈴にて食堂開かれ各自歡を盡して散會す

◎辭令傳達

寺內總督は二十八日午後二時總督府總督室に於て去る二十四日附を以て官等陞敍されたる玄角、中野兩警務官川崎技師以下に對し辭令傳達式を行ひ其々辭令を交付せり

◎辭令(二十七日附)

朝鮮總督府師範學校教諭兼朝鮮總督府女子高等普通學校教諭 小杉彥治

依願免本官並兼官

道慈惠醫院醫官 飯田實

依願免本官

同 河本壽登

平安北道楚山慈惠醫院長を命す 田中一郞

任朝鮮總督府道慈惠醫院醫官 敍高等官七等

人事消息

▲後藤瑞巖師 朝鮮山 大邱釜山に巡錫中の處二十八日

▲バーマンデー(佛國領事) 二十八日入京朝鮮ホテル投宿

旅行中に付年末年始の禮を缺く

旅行先 東京府下大井町四〇四番地

杉山孝平

辱 皇后陛下 各宮殿下 御嘉納

國民新聞社編 定價五十錢郵稅八錢(本社負擔)

理想の家庭

本社は現代斯道專門の諸先生が我國家庭の改良向上を圖らんが爲に住宅の建築構造より、育兒、衞生、家事、經濟の事に至るまで、家庭に必要なる百般の事項を細大漏さず叮嚀親切に講述執筆せられたものであります。加之前記各題目の後には家庭便覽として家政上最も大切なる種々の心得を記載し、尙諸先生考案の鮮明なる寫眞版を挿入してあります。主婦計りでなく家政研究中の女學生諸孃の、是非共一冊を左右にせらるべき最新刊の良書でございます。

大取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

御贈答用最適品

優良正宗一斗樽 瓶詰化粧箱入

京城明治町一丁目

山邑京城支店

全道各郡廳各警察官署に謹告す

小生儀總督府の御認許を得て朝鮮紳士大同譜の豫約出版を爲し全道二萬五千名の豫約者に對して夫々擔任者をして配本せしめたるも何分多數の豫約者なれば未配本者あるやも測り難きに付御管內の豫約者にして若しや未だ該製本を領受せざる者あらば其姓名を記列し郵便先拂にて小生方へ通知する樣御傳達有之度候也

大正四年十二月廿八日

京城太平通二丁目百二番地 大垣丈夫

▲陸軍大更迭延期　陸軍の大更迭は明年に延期せられ其際陸相[illegible]

▲[illegible]帝御名代來[illegible]帝の御名代は大典祝賀の爲め二十八日霽都出發來朝す可しと

[illegible]利を貪ぼらんとせしより商主は非常に[illegible]低價格の低価は經濟界振不振の最大原因を爲すものにして大正三年春期以來[illegible]是れに反し米價は強硬にて順大早[illegible]妥なるが年末の忠州郡地方經濟狀況左の如し

[illegible]減じ[illegible]保護するは[illegible]は商行爲により道[illegible]に移出せるもの[illegible]其の多く京城在住地主へ移出する[illegible]引せるもの七千石內外あり

▲穀價の變動　十一月上半期　十一月下半期　十二月上半期

▲地方金融機關　金融機關としては金融組合農工銀行支店なるが金融組合十一月中貸付高六圓九十錢十二月十五日迄[illegible]九千百十六圓三十二錢にして金融組合にて取扱ひたる金額は重に農業資金三萬四千五百四十三圓二十八錢にて一般金融圓滑なり(忠州)

授け給ふ壺切の寶劍

春は莊嚴なる立太子の御式

曠古の大典たる御即位式並に大嘗祭も滯りなく了らせられ次に行はるべきは立皇太子の大禮なり、之が式期に就き石原宮內次官に訊したるに多分來春四五月の頃定めらるべしとの事にて立太子式の諸儀は大約即位式の諸儀に準據し行はるゝ筈にて期日確定の上は宮內大臣之を公示し六禮當日は賢所、皇靈殿、神殿に奉告し且つ神武天皇御陵、先帝山陵に勅使の參向の事等あり最も莊嚴なるべきは賢所大前の儀にて天皇、皇后兩陛下御拜禮告文を奏し給ひ次で皇太子殿下御拜禮在らせられたる後天皇陛下には皇太子殿下に對し勅語と共に壺切の寶劍を授け給はるべく又朝見式は宮中正殿にて行はれ皇太子殿下には兩陛下に年頭日頃の鴻恩を謝し奉らるれば之に對し優渥たる勅語聖旨を下し御祝盃を賜るのみか侍從長女官を通じて御祿御遣の事ある抔子の親を尊び親の子を愛する大範を垂れ給ふなりと伺又花やかなるべきは宮中豐明殿の大饗にて皇族方を初め奉り內外の使臣を召し盛んなる祝賀の宴を賜ふ筈にて賢所大前の儀に於ける殿下の御裝束は縫袍、空頂黑幘御儀服なるべしと云ふ(東京)

年の瀬いろ／＼の記

何方向いても景氣がいゝらしい

□年賀郵便廿九萬通

□郵便爲替百二十萬圓

一年三百六十五日間の疎遠無沙汰を一葉の端書で棒引にしようといふ筆無精者には至極便利な年賀郵便の取扱は愈々二十九日でお終ひになるから綜合するに今年は何といつても好景氣である事は爭はれず、年賀郵便の差出し數も滅法多くなつてゐる

■いろ／＼の方面

二十七日までに京城郵便局で取扱つた數は二十八萬七千九百二十六通之れを昨年の同日まで二十二萬八千四百四十二通に較べて五萬九千四百八十四通多く一昨年の二十六萬九千二百九十八通に比すれば一萬八千六百二十八通多いわけだ、昨年の如き二十八、二十九兩日で十五日から二十七日まで十三日間の分より

■多い數が出て來

た程だつたが本年も勿論然うなるべく二十七日までの二十八萬に對して二十八、九の二日間に三十四五萬は出て來る見込であるといふ事だ、郵便爲替の分を見るに二十七日までの分が十二萬二千二百九十六通昨年が十一萬五千四百四十九通で本年の方が六千八百四十七通多い、發送に比較すると其處に夥ない樣だが每年の事で間際になつて一時に

■ドツと來るのが

通例だ、又市中の中流以下の金廻りが最もよく見透される郵便爲替の受拂の口數は昨年の一萬六千三百七十四口に對する二萬一千百八十七口で四千八百十三多くその合計金額では昨年の百十四萬九千九百三十七圓に對する本年の百三十萬四千六百六十三圓で十五萬四千七百二十六圓增して居るのを見ればその間の

■事情が覗はれる

小包の引受は昨年の六千八百五十六個に對する七千二十六個で百七十個多い、之れ等の諸統計が本年の好景氣を立體的に示してゐるのである、

獨逸人を放逐せよ

彼等は兇惡なる平和の破壞者也

神戶在留第一流の英國人として[illegible]支店長なるアーレー氏は八阪丸[illegible]訪記者に左の如く語りたり

▲獨探跋扈の證據　八阪丸の珍事を聞いて吾々在留英人間に於ても獨逸の蠻行につき非常に憤慨して居る、自分は郵船社長とは深く懇意の間柄でもあり早速慰問の書面を送つて置いたが元來獨逸の眼中には萬國公法もなければ仁義道德もない只純然たる破壞主義である、而して何等の戰鬪資格なき客船を無警告で撃沈し婦人小兒の溺死を物の數とも想はないのが獨逸從來の筆法である

人命に別狀なかりしは未しも僥倖たが不幸にして八阪も其毒牙に懸つた譯で之には獨探の活動が與つて大に力あることゝ思ふ、今や獨探は世界の各方面に跋扈してゐるのだから其巧妙なる通信機關によりて八阪の倫敦拔錨から地中海航行中の消息を探り出し之を其向に傳へたものと自分は確信する

▲獨人放逐は至當　ソコで吾々英人は日本政府及び日本人に今少しく目を開いて事の眞相を見分けて貰ひたいと熱心に希望するのである、と云ふのは在獨の英佛露人は勿論日本人が過去の際アレまで虐待されながら日本は何の義理ありて在留獨逸人に今日の如き法外の自由を與へるか又獨逸の殘忍無道は既に確固たる事實として證明せられ全く軍事に無關係なる自國の客船、加之も日本第一の美船を無警告にてムザ／＼撃沈されながら何を苦むで在留獨人を興國のそれ以上に優待するか俘虜は日本官憲の優待に對し果して何をしたかチウトン人は恩を恩と思ふ樣な人種と思へば大なる的冒瀆である渠等は世界統一否少くも歐洲併合を夢想して居る恐るべき人種にして其アムビションを遂するには手段も方法も決して選まない、萬一今の戰爭が獨逸の勝利に歸する曉には更に絶大なる軍備を凝らして東洋に殺到するは火を見るよりも明瞭であるから此戰爭は實に文明世界の重大問題であるにも拘らず日本政府が敵國人を斯の如く厚遇する理由は吾々英人には如何にしても解せないソレには不幸ながら八阪の撃沈が好機會かと思ふ宜しく在留敵國人を全部放逐するか乃至幽閉すべきである在獨日本人は悉く放逐幽閉以上の待遇を受けたではないか

▲英船無事の理由　今後は何とも保證し難いが今日迄比阿社の汽船には一隻も撃沈されたものはない只今歸航のものにはカシユミルが横濱に居り來航のものにはモンカラが野偏母まで來て居るが極東往復英船の斯の如く比較的無事なる理由は海軍との無線電通絡が巧く保たれ居る結果に外ならぬ地中海は只今敵潛航艇橫行の中心であるが例へば比阿汽船が歸航の途次ポートセッドに落したとすると地中海の英國軍港馬他の官憲から敵艇が斯々の場所を徘徊して居るから注意せよと警告するソコで其船は通例の如く日巴太拉へ直行を裝ひて實はジグザグの航路を取り地中海を鈎の手に縫ふて始終敵艇を撒いて歩く之には船長の非凡なる手腕を要するが今日迄は總て巧妙に實行されて居る、來航船も同じ筆法にて日巴拉太にて警報に接する時は先づ直行を裝ひて阿非利加沿岸を潛行しソレより急に折れて佛國に向ひ更に大曲折を以て斜に再び阿非利加の沿岸に出で復も屈折して伊太利に逆すると云ふ風に敵艇の目を罔ます方法を取つて居る

忙しい年賀郵便の取扱ひ

海賊就縛

棍棒を振つて船中へ躍込む

高陽署にては年末に差迫り殊に漢江を上下する物騷なる海賊船あるを聽込み之が檢擧に努め居れる所過般三名を殺害して強盜を働きたる二名の海賊は全部逮捕し併せて昨冬漢江にて船強盜を遑うしたる犯跡を發見し遂に其犯人を逮捕することを得たり海賊は京畿道紅華郡不遠面磨城浦船乘業全擧順及び金浦郡霞城面新里船乘業鄭仁植の兩名にて昨年舊十一月初め共謀の上漢江を往來する籾船を襲撃せんと物色しつゝある際金浦郡陽西面の穀物商金某方に籾運送船あるを發見し棍棒を携帶して籾船內に突入し船室に眠り居れる五名の船夫を出で來れば殺害すべしと脅迫し鄭仁植は見張をなし全擧順は籾船にありたる籾四十俵を自己の船に運び移して強奪し之を三日の後[illegible]郡後西面の穀物商金某方に持行き同人の周旋にて氏名不詳の某鮮人に一俵を二圓四十錢宛にて全部賣却し代金九十六圓の三分の一を鄭に三分の一を全に於て各分配領得したることを探知し何れも同署より各自宅に出張して難なく取押へ取調べの上檢事局へ送りたり

老豹射殺

帝釋山中を狩る

二十一日平壤貫金町狩獵家松林要太郎(三二)伊藤泰次郎(三)の兩氏は同日の降雪を好機とし平安南道江東郡晩品湖面の西北に當る帝釋山中を好き獲物もあらんかと風雪を物ともせず踏破し午前十時頃雪中に豹の足跡を見出したれば實悅び之所を知らず大に勇氣を鼓舞し同山を一周したるも其の足跡を見失ひしより失望落膽佇立せる折柄突如として前方百五十間餘の處の岩石上に約三十貫もあらんと思はるゝ老豹現はれ忽ちにして逃走し追跡すること數時にして、とある岩窟を見下せしにその中の約五間位の所より件の老豹山も崩れん許に怒號し飛掛らんとする所を狙を定めて一發の下に倒したりと

釜山の大火と郵便局員活動

二十六日の釜山南濱町の大火災に際して釜山郵便局にては當日日曜日にもかゝはらず志賀郵便局長以下局員二百餘名は年末の事とて多忙の爲め執務中の處なりしが火災起るや直に局長以下出動なし郵便局所管物の保護の爲め火災方面の各ポストの時間外臨時開函を行ひたる結果郵便物には何等差支なかりし由又類燒家屋中電話加入者二十七戶にして電話機は全部取り脫したれ共混雜中にて三四個行衞不明の由又燒失電柱十一本電線二十一丁にして其損害約四百圓內外なるべしと鎭火後局員全力を擧げ復舊工事を施したる結果午後七時頃に至り附近の不通線全部開通せり

荒繩にて縛す

本月二十四日高陽郡延禧面加佐洞金順澤方に三名の強盜闖入し中一名は高陽署の手に逮捕されたるは既報の通りなるが共犯者二名も遂に檢擧せられたり片割の賊は富川郡府內面礦川里の飴行商人李泗澤(三)及び自稱黃海道金川郡生れ住所不定の金錫俊(三)の兩名なり兩名共前科二犯の曲者にて李泗澤は十二月十五日夜には始興郡北面大方里金永石方に突入して家人を荒繩にて縛し金品を強奪し其他二三箇所にて強盜を働きたる曲者にて錫俊は他二名と前記水色里附近にて強盜を働きたること判明し何れも高陽署の手に檢事局へ送る

怪しかる船頭

高陽署の巡查二名が二十四日夕刻高陽郡延禧面新林里倉川の河岸を密行中一人の擧動不審なる三十格好の鮮人が通りたるを聞込み直ちに附近の現場に赴きたるに果して逃走中なるを認め引捕へて本署に引致して嚴重取調べしに彼は同郡龍江面新水里鐵里船乘業邊命根(三)といふ者にて其自白する處に依れば二十四日午後七時頃水色驛附近にて同郡延禧面新林里金相浩の妻林姓女(三)が一人にて通行し居るを見て有無を言はず邊理無理附近の山中に連れ込み口を押へて發聲させざる樣にかし怪しかる振舞に及ばんとせるより同女は極力抵抗し救を叫びたる爲め里民驅付けんことを恐れ同女の髮に挿しある銀簪一本及び風除衣を強奪して逃走したること判明し取調べの上檢事局へ送致

●總代の橫領　長崎縣北松浦郡鷹島村當時京城太平通二丁目居大工職清水增五郎(四三)は三年七月より本年五月迄水道官設共用栓の總代人となり自己の組合より取纏めたる水道料金同町二十四名分合計金二十七圓九十錢を取纏めながら之を納入せず横領消費したる爲め鍾路署の警官に探知せられ同署にて取調べの上檢事局へ送られたり

□宿醉の心理

心地のいゝ迎酒

忘年會から引續いて新年會、平常から酒に強いと誇る人もつい調子外して呑むので翌る朝は頭がガン／＼痛く嘔吐な催す況んや弱い人が無理酒な強ひられ、滅多に飲まぬ人が鱈腹浴びるに至つては翌る日一日仕事はフイになる

然らばどうして此の宿醉を癒すべきか、

俗間では、云はせればいろ／＼療法の無い事は無いが、矢張り例の迎へ酒と云ふ奴が素人に一番適した療法であると思ふ、元來酒と云ふ奴は[illegible]

[illegible]

其れ故にこれを癒すには心臟の働きを[illegible]

□御用納めと共に內地へ行く人

□近頃は南行の客の多い驛頭

歲がなる汽笛がなる唯でさへ忙がしい南大門驛の昨今は一年中で陽春の花見時分に次ぐ人出である、尤も今年は共進會騷ぎで

■全鮮の人が京城

に集つたと故歲暮の乘客は如何であらうと聊か鐵道側の人々は心配したが概して昨年に比して變りは無いらしい樣子、殊に廿八日の夜行列車と廿九日の午前發列車とには各官衙の御用納めが濟んで內地で正月を迎へる爲めに釜山に向ふ官吏が多く猶廿八日からは各學校の冬期休業となるので內地人の中學校生徒女學校生徒を始め鮮人側の學生々徒も其れ／＼

■懷かしい故鄕に

逃る者が多い其の他商用取引等で往來する人々も歲末になると多くなるが併し其れは二十八日迄が絕頂で愈よ大晦日前になると却つて尠ない、又鮮人側は一般に舊正月前で忙がしいので昨今では唯だ仕入の爲めに入京する人が多く農夫は又收穫移の關散な時分であるから一般の用達し旅客も增加する次で從來一等室を占めて居た外人旅客は歐洲戰亂の爲め殆んど其の跡を絕ち昨今では

■朝鮮在留外人と

稀に米國から遊覽に來る洋人位のものである、猶ほ又內地に多き所謂近縣旅行者も無いでは無いが今年は共進會で景氣が好いから債鬼除けの旅行者は尠なからうとのこと、其他旅客に次で增へるのは列車內や停車場待合室に遺されたる忘れ物の遺留品である、品目は毛布、膝掛け、洋傘、帽子、襟卷、萬年筆、インバネス、眼鏡等であるが中には大事な財布を忘れて行く人もある

京日案內

◎普通　一回前金三十五錢(無割引)　匿名一回毎に金五錢增

◎番外　一回前金六十錢(無割引)　匿名一回毎に金五錢增

◎店員入用　商業に經驗有る年齡十七歲以上廿三歲迄希望者市內保證人要す　京城旭町一電八三番九卅旅館　129

◎頗る有利事業譲る　美人にも出來る副業に適す至急面談　(姓名在社)　196

◎金庫△タイプライター△コツピープレス格安にて譲りたし　(姓名在社)　187

◎古本なら野村　買入繊賞御報參上　京城本町一丁目(明治町筋)　野村書店　電話二六三六番　112

教師急採用　至急　中學卒業學力有ル者一名採用希望者履歴書携帶午後七時ヨリ九時迄ノ間ニ本人來談アレ　京城明治町二丁目○小川旅館方へ　208

時代的御贈答品に　高麗人參　精四十日分一、五〇　卅日分一、一〇　代價廿日分七五　京城明治町二　電二四九六番　藤原蔘精堂　198

內科　兒科　專門　胃腸病　呼吸器病　京城本町二　壽町元中島病院跡　(入院隨意)　山田醫院　電話二八八〇番　81

餅用　小豆　あん　種々製造　賣出　年內中は御用達一貫目以上は速達　若草町一一　電話九五一　京城製餡所　190

質　電話二八九〇番　一般業務は確實御通知次第御伺申候　京城新町　石橋質店　192

◎質　○秘密を守り精々勉強　○仕り親切に取扱申候　黃金遊園前電車停留所橫入　電話二一一番　金子質店　96

梅毒　產婦人科　肺結核　內科外科　上野醫院　黃金遊園前電車通　◎診察夜九時迄　◎往復電車の便有り　電話二九三四番　97

恩給　年金　無保險　低利　立替　長期　短期　地方在住者上京に不及　便法あり　其他擔保信用貸仕候　京城南大門外　○御成町　山口屋　98

恩給　即時立替　低利手數料極安　地方通信取引　債務附證　勸業債券　貯蓄　高價買受　御不用分　京城若草町百六番地　電話二二六三番　西村商會　102

公債　株式　賣買　債券　大阪野村德七代理店　京城本町二丁目　電話長九三番　田中吉友商店　144

京城府告示第一八號　來ル大正五年一月一日當廳ニ於テ御眞影拜賀式舉行候條同日午前八時半ヨリ十時半迄ノ間ニ於テ府民一般隨意拜賀セラルヘシ　但シ服裝ハ「フロックコート」若クハ羽織袴トス朝鮮人ハ相當敬意ヲカサル服裝ニテ差支ナシ　大正四年十二月二十七日　朝鮮總督府府尹　金谷充

滿蒙處分論　露國クロパトキン將軍原著　日本大井包高譯　定價金一圓　郵稅本社負擔　京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

商業登記公告　商號新設　商號　平田運送店　營業ノ種類　運送業　營業所　京城府吉野町壹丁目九拾壹番地　商號使用者ノ氏名住所　同所　田泰介　株式會社十八銀行取締役松田庄三郎ハ大正四年拾貳月拾七日死亡シタリ　右大正四年拾貳月拾四日登記　京城地方法院

朝鮮總督府　一、輕便軌條用附屬フイツシプレート外二點　右購買ス詳細ハ十二月二十三日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ

正誤　大正四年十二月二十三日發行京城日報朝刊第三面廣告欄右の廣告中『十月二十三日』とあるは『十二月二十三日』の誤植に付訂正す

廣告　京城憲兵隊長兼京畿道警務部長瀧元次郎氏今回平壤へ轉任ニ付左記ニ據リ送別會開催致候間御贊同被下度候　敬具
一、日時　一月七日午後六時ヨリ
一、場所　朝鮮ホテル
一、會費　金參圓五拾錢
一、申込　一月六日正午迄ニ京城憲兵隊本部(電話三三四番)秋原副官へ會費添附御申込ノコト

發起者(イロハ順)　原田金之祐　金谷充　呼子友一郞　子爵　宋秉畯　海寶[illegible]精　山形閑　子爵　趙重應　趙鎭泰　有賀光豊　阿部充家

喪中に付年末年始の禮を缺く　京城明治町一丁目　北村皮革直輸入店

新刊書御案內

書名	著者	定價
◎日本骨董大辭典	池田常太郎	特價三、〇〇
◎ユウゴオ論說集	榎本・秋村	一、八〇
◎シエイクスピア物語	[illegible]	七五
◎獨修露西亞語研究	[illegible]	七〇
◎未だ見ぬ親	五來素川	一、〇〇
◎心づくし	水上瀧太郎	九〇
◎浮世草紙集(三卷)	西鶴	各八〇
◎美人禪	常岡浩泉	[illegible]
◎彈機	竹田敏雄	一、〇〇
◎最近の自然科學	田邊元	一、三〇
◎日本農村論	[illegible]	九五
◎探偵ロマンス	松崎天民	九〇
◎ドンキホーテ上下	島村抱月	各一、二〇
◎飛行機ロオマンス	倉富砂邱	一、〇〇
◎悲哀より歡喜まで	[illegible]	九〇
◎聖書日々行論	[illegible]	一、〇〇
◎新ライピヤンナイト	若月紫蘭	二、〇〇
◎土木工學上卷	川口外五名	二、五〇
◎机上日記	岡崎英夫	一、〇〇
◎現今名家圍碁戰	本因坊秀哉	一、〇〇
◎園藝集	[illegible]	一、〇〇
◎東電筆錄	野依秀一	一、八〇
◎帝國議會沿革史	[illegible]	五、五〇

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六　振替京城二五七三

千生瓢 (84)

須藤南翠作 筒井年峰畫

會戰 (五)

玄蕃允盛政は、拜郷が奮戰の狀況を快然として見て居つたが、敵は新手を入れ替へて、挫けず怯まず防げ入るので、自身も馬を進まして、大鐵棒を打ち振り〳〵、四五度も敵の中を乘り廻した。

斯うして追ひ來る敵を討ち散らしては、其間に人數を纏めようと計つたが、敵は山々谷々に充滿ちて、一方を崩せば、一方より進み來て、一旦崩れかゝつた北國勢は、足の立て途もないまでに混亂した。此頽勢に押し隔てられ、如何に勇氣は衰へぬとも、盛政は是非なく敵を見棄て、陣を退かねばならぬ場合となつた。

『五左、引かれい。此處は足場が惡いわ』

盛政は拜郷に聲をかけて、急ぎ四邊の形勢に注目した。

『おゝ彼處ぢや。志津ヶ嶽の北、飯浦坂の南に、小高き丘の見ゆるよ。彼處で暫し陣を立て直さうぞ』

斯う大聲に呼ばゝつて、急ぎ諸陣に下知を傳へ、更に德山五兵衛、金森五郞八入道に命じて、姑らくこゝに防ぎ矢を射させるのであつたが、金森五郞八入道は、柴田の寄騎としてこゝまで出陣したものゝ、勝敗の機運を早くも見て取り、唯だ好き程に戰して、人數を纏めて引き揚げた。さらぬだに難儀な防戰であるのに、金森が變心に依つて、德山は僅に手勢ばかりとなつた。一しきり奮戰はしたものゝ、所詮喰ひ止める勢がないので、散々に擊ち破られ、五兵衛は唯一騎となつて、僅に身を以て北の庄に退るゝに至つた。唯だ原彥次郞の後殿の堅固にて、香木彌七郞、原勘兵衛、長井五郞右衛門、豐島猪兵衛、鷲見深次郞、毛屋新內なんぞの勇士、義を重じ、命を輕んじて、幾度となく引つ返し、突き倒し、突き退けて、爰を先途と拒ぎ鬪したので、追手も其鋭鋒に辟易して引き揚げる事を得た。此一戰北國方に於て、深く敵の稱贊を得たのは、獨り原彥次郞ばかりであつた。

玄蕃尉盛政は僅に足場好き地に移つて、崩れたる陣を立て直しながら味方の勢を調べるに、柴田三左衛門尉勝政の三千餘騎が、まだ賤ケ嶽の峰筋より引き揚げぬに心付き、直ちに使者を走らして『我が勢は已に立ち固めたるぞ、急ぎ此處へ引き揚げ參られよ』と下知せしめた。この下知を得た三左衛門尉勝政は、堀切を前に當て、猶堅陣を張つてゐたが、夜明を待つて出發するであらうと考へた筑前守は、早や木本を進發して賤ヶ嶽へ押登り、猶も谷も勢を以て滿たされた上は、此退き口も容易の事でないと、深く思慮を運らした上

『御旋徳に承はつてをざる。敵間近く押寄せてをざるに依つて、只今俄に引き退く時は、敵に付け入らるゝ虞れをざる。姑らく時を見て、御一緒に成り申すでをざらう』と答へて使者を返したが、其身は堅く敵に對して備へを立てゝゐた。

北國勢は悉く不利の地に落ちて、只管に人數を纏め、備を立て直して切所に敵を喰ひ止めた上、退き口を全くしようと焦慮るばかりであつたが、羽柴筑前守秀吉は、この曉に乘じて、北國勢を賤ケ嶽より追ひ落し、短兵急に追擊して、少しも息をも留めさせず、附け入り、附け込み、追ひ慕うて、一氣に越前に押し寵めようとの神謀、既に充分熟したので、まだ夜深きに木本の陣を發し、大津村より賤ケ嶽へ登りかけた。丁度此時大音村から取り登つて來た丹羽五郞左衛門尉長秀の加勢と、坂の途中で行き合つた。秀吉はつか〳〵と馬を進めて、

『丹羽殿おざるか。久しうおざつた』

『おゝ筑前殿、いかう早う參られた。常にもながら足下の機敏、殆ど人間業ではおざらぬよ』

長秀も馬乘り近けて會釋した。

『さもおざるまい。左りながら、貴殿の御加勢の御芳志、三法師公は勿論總見院殿御靈に於せられても、いくばかり嬉しく思し召さう』

本社電話番號

當分の間構內接續電話を廢し凡て局直通電話にて左の通り御呼出被下度候

編輯用 營業用 發送用

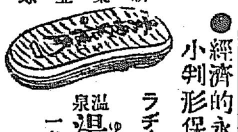
局三四五番 一二一四番 長三三六番 六六〇番 二六一六番

●經濟的永久使用 小判形保溫器

ラヂーユム含有溫泉

溫泉湯之花懷爐 一名ラヂーユム懷爐 (特價貳拾五錢)

新案登錄



廣島市大手町八丁目(市役入る北) 溫泉湯の花懷爐元 發賣 品川商會

特約店及販賣員希望方は返信料要す

登錄商標 瓢水味淋 堺 嶋瀨 醸

專賣店 京城本町二丁目 前田酒店

りん病ばい毒患者諸君 にせ物御注意

●偽ドラッグ所々に起る

近來窃に吾商會法定の登記商號を盜用する狡徒がある。最近當京城にも偽ドラッグが出來たとの評判でありますが調査の上事實とすれば相當法律上の手續を經て處分する心算であります。偽物を製造して世人を瞞着する樣な鼠賊を相手にする迄は甚だ大人氣ない樣でありますけれども偽物の中には藥名、定價、容器等寸分違はぬ贋造藥を發賣する者がありますから一般患者諸君が我商會の製藥と誤認せられて效能稀薄な模造藥又は贋造藥を御購求相成る事があつては御氣の毒でありますから茲に御注意申上ぐる次第であります『贋物は至る處にありまして殊に東京が最も多くあります、中にも甚だしいのは、それ〳〵其筋より處分されて居りますが今重なる一二例を擧げまするとも『前にも東京の高朝報、やまと新聞を始め大阪朝報等に左の如く掲載せられた事がありますから諸君の中には御存知の方もある筈であります

◎不埒な賣藥商 芝區二葉町五番地藥商業根鐵藏(四十一)は大阪市南區三休橋北詰角ドラック商會製造の麻毒滅(定價一週一圓)疾毒滅、(定價一週二圓)二十錢を發賣しつゝありしが、昨年來神田區錦町三ノ十六元ドラッグ商會員堀口淸彥(二十九)より該藥類似品二種を各一週間分僅かに十錢で買入れ大阪製造元同樣の容器に收め相變らず二圓に賣附居たること發覺し二十日芝口署に告發せられたり(九月二十二日高朝報)

◎橫著な賣藥(前略)藥根鐵藏、堀口淸彥共謀して大阪三休橋北詰ドラッグ商會製劑の淋毒滅、疾毒滅を僞造し暴利を貪りし事發覺二十日押へらる(九月廿三日やまと新聞)

◎大阪朝報九月二十四日所載も殆ど同樣に付省略す

右の外名古屋にても西山勝三郞なるもの贋ドラッグを開店して模造藥を販賣し居るを名古屋支店主任番氏より其筋に告訴し、西山は謝罪して看板を撤した事がある此他東京市外京都及び神戶等にも偽ドラッグを開店して贋物を販賣して居る者があるとの事である。』

吾が商會の製藥は醫藥學の素養無き彼等の到底一步にも眞似の出來無い卓効藥でありますから患者諸君は彼等贋物に瞞着せられざる樣特に左の點に御注意を願ひます。

本舖大阪合資會社ドラッグ商會の製藥品に右の記名無き物は總て贋物であります。

吾商會の支分店に於て萬一にも利慾に迷ひ贋物を諸君に御渡しする樣な事がありましたら御手數恐入りますけれども御一報下さい相當の謝禮をします。

右の記事中『』內の文章及括弧は讀者諸君の御參考迄に新聞(新聞)第一號より拔萃せるものにて、何時の世にも不正の徒の絕へざるは誠に慨嘆の極みであります

本舖 大阪 花柳病專門藥房合資會社ドラック商會

京城南大門外停車場通

花柳病(りん病ばい毒)專門藥房ドラック商會鮮滿本部 電話長二五六七

支店京城黃金町、龍山漢江通、元山、釜山

振替京城四六七

▲本溪湖と貨物

▲特產八分通 本溪湖に於ける [illegible]

十二噸、高粱百五十二噸、粟千七噸を計上せしが三年度には大豆千九十三噸、豆粕千四百八噸、高粱五百三十一噸、粟四十三噸の出貨となり而して本年 [illegible]

特產取引商は支那人にて二三相當勢力を有するものあるも一般に微力にて三井、小寺、鈴木等の邦商は先年來 [illegible]

▲減貨拒絕さる 當地に於て [illegible] が或は三邦商の競爭を現出せんか [illegible] 有力なりしは廣淡にて本溪湖炭を [illegible]

依り製出さるゝも品質佳良ならず爲めに賣價に於て取引上困難なるより特別に運賃低減を申出し事ある由な [illegible]

の製品代(作業期間七箇月間)小洋九百圓、千二百圓、三百圓位にして當地發送貨物總計三十四萬千五百七十七 [illegible]

セメント石灰	二九二、四九〇	米	四一六
金鳳(溪湖社)(川品)	二、六三六	粟	一、五二四
石材(同)	九七七	包米	五八六
木材(同)	八七四	麥粉	一、六八〇

▲輸入貨物數 三四 綿布 二四四 中石材二百七十六噸、煉瓦三千四百四 其他到著貨物に費消さる而して特產物の分は六月頃多數出廻ることとあり 成廠方面 (本溪湖)

本邦及英米國政府 專賣特許

滋養強壯料

▲甚しき臭味を忍びて、肝油を飲用すべき時代は去れり▼

▲咀嚼して美味無臭、容易に定量の肝油を食用し得べき▼

○肝油ドロップス

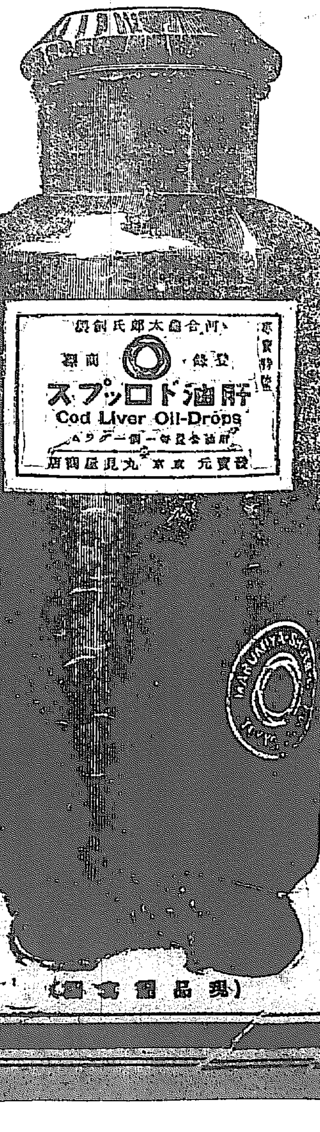
河合龜太郞氏創製

肝油含量一顆一グラム 一日二回乃至三回服用

五歳以下	一回一又は二	一日二乃至四
十歳以下	一回二又は三	一日四乃至六
十五歳以下	一回三又は四	一日六乃至八
大人	一回四又は五	一日八乃至十五

▲用法▼ 肝油ドロップスは菓子の如く食すべし。又は細かく碎きて湯又は冷水にて服用するも可なり

定價 五十粒入 [illegible] 百二十粒入 [illegible]



(現品寫眞)

肝油が一般の虛弱者、羸瘦者、結核性素質者、營養不良に起因する眼病患者腺病質の兒童等に對し、治療上缺くべからざる滋養劑として內科、眼科、小兒科等の醫家に處方せられ、卓効を奏するは、醫療上の定論なり。然れども其特有の臭味、甚だしく不快なるが故に其服用を嫌忌せらるゝを慨し、河合氏多年苦心研究の結果、形狀洋菓ドロップに似て、麥芽糖及び可溶性の含窒素物を基礎とし、一顆毎に精製純良の肝油一瓦宛を正確に含有し、乳化完全にして分布極めて細密、美味無臭にして而かも容易に食用し得べき「肝油ドロップス」を創製す。本品は從來の肝油製品に優り、服用に面倒なる手數、携帯の不便、變敗の迅速なる等の缺點なく、殆んど本質の肝油たる事を忘れ、兒童は勿論何人も好んで食用し得ると、酷暑の候と雖も、冬季と異る事なく消化吸收の作用頗る良好なる事とは本品の最も優秀なる特色とする處なり

專賣特許◎登錄商標 肝油ドロップス 肝油含量一顆一瓦にして麥芽糖及び可溶性含窒素物を以て成る

登錄商標◎專賣特許 複方肝油ドロップス 肝油の含量を半減して有機鐵、有機燐酸及び石灰、規那等を含有せしむ

◎肝油ドロップスは如斯人の滋養料として最も適當なり

一、顏の色が蒼白くて艶無き人
一、皮膚の紋理が惡くザラ〳〵してゐる所謂あれ性の人
一、身體一般に貧血してゐる人
一、之といふ病氣はなくても何と無く弱く感冒に罹り易い人
一、筋肉の目立て瘦せてゐる人
一、手足が冷て寢られぬといふやうな纖弱い人
一、色が蒼くて肉瘦せ、而して活潑ならぬ所謂腺病的の小兒
一、頸が細長く、頰が瘦け、喉や痰の人並より多く出る所謂結核素質のある人
一、筋肉を太らせ、無病壯健に元氣よく活動せんとする人
一、身體一般脂肪氣の少き人
一、顏や手先きを潤こくし度い人
一、產前產後の滋養を計らうとする人

◎複方肝油ドロップスは如斯人の滋養料として最も適當なり

一、骨の故障即ち佝僂病骨軟化其の他種々の骨病ある人
一、營養不良から來れる眼病例へば夜盲症や網膜貧血に罹れる人
一、腺病(瘰癧)に罹れる小兒
一、發育不全の小兒
一、貧血病になつてゐる人
一、肺結核其他結核的の病に罹つてゐる人
一、腦神經衰弱、ヒポコンデリー、ヒステリーなどの神經病に惱まされてゐる人
一、陰萎、遺精などの生殖器神經衰弱に罹れる人
一、病後の衰弱を速く回復したい人
一、心臟病に罹れる人
一、右の外種々の病に罹つてゐる人の滋養物として理想の良食物である

▲賣捌―全國到る處の藥舖、洋酒食料品店、化粧品店、小間物店▼

本舖 ミツワ石鹼 ミツワ椿油 ミツワ家庭藥 肝油ドロップス 御園化粧品

發賣元 ○ 登錄商號 丸見屋商店

東京市日本橋區橘町四丁目 藥劑、滋養品、石鹼、香粧品、小間物問屋

電信略號○ミヤ……振替貯金口座東京七一〇番

營業部 電話長浪花三〇・四四八・四四九・四三〇番